仙台市文化財調査報告書第 504 集

富　沢　遺　跡

― 第 157 次発掘調査報告書 ―

2023 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第 504 集

富　沢　遺　跡

― 第 157 次発掘調査報告書 ―

2023 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。本市教育委員会といたしましては、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことと考えております。

富沢遺跡は、仙台市南東部の太白区富沢、泉崎、鹿野、長町南などに広がる面積約 90ha の遺跡です。この地域は、昭和 50 年代の土地区画整理事業を契機に都市整備が進み、その後の地下鉄南北線の開通によって仙台市南部の拠点となっています。

これまで富沢遺跡の調査では、旧石器時代から近世までの様々な活動の痕跡が残されていることが明らかになっています。特に第 30 次調査では、約二万年前の後期旧石器時代の焚火跡などが発見され、調査当時の姿で現地での保存と公開を行う「仙台市富沢遺跡保存館－地底の森ミュージアム－」の建設につながりました。当施設は、平成 8 年の開館以来、当時の人々の生活をよみがえさせる展示とともに、様々な普及活動を行い親しまれています。

本報告書は、富沢遺跡の第 157 次発掘調査成果をまとめたものです。本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様への普及活動に広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。また、今回の発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者様には、発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、発掘調査及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

令和５年３月

仙台市教育委員会
教育長　福田　洋之

例　　言

１．　本書は共同住宅建設に伴い仙台市教育委員会が実施した、富沢遺跡第157次発掘調査報告書である。

２．　発掘調査は、仙台市教育委員会が株式会社イビソク仙台支店へ委託して実施した。

３．　本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課　柳澤　楓・工藤信一郎の監理のもとに、株式会社イビソク仙台支店　稲垣裕二・小林あきほ・佐々木和城が担当した。本書の執筆分担は以下の通りである。

柳澤　楓・工藤信一郎　第１章第１節、第２章第２節、第６章

稲垣裕二　第１章第２節、第２章、第３章、第４章、第５章第１・２・３節、第６章

小林あきほ　第５章第５・６節

佐々木和城　第５章第４節

４．　整理作業・報告書作成は、株式会社イビソク仙台支店にて行った。

５．　発掘調査及び報告書の作成にあたり、株式会社タカラレーベン東北にご配慮とご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。

６．　発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

１．　本書の土色は、新版標準土色帖(農林水産省農林水産技術会議事務局2016年版)に準拠している。

２．　第１～５・14・15図で使用した原図の出典については各挿図に記載した。

３．　図中の座標値は世界測地系(測地成果2011)を使用した。

４．　本文図版などで使用した方位は座標北を基準としている。

５．　標高値は海抜高度(T.P)を示し、値は2011年3月11日の東日本大震災後の修正座標を使用している。

６．　本書で使用した縮尺は下記の通りである。詳細については各図のスケールを参照されたい。

全体図1/200　遺構図1/150　調査区壁面断面図1/50　個別断面図1/40・1/60　遺物1/3

７．　基本層・遺構堆積土の表記は、アラビア数字で表記した。

８．　遺構図内のトーンの詳細については、遺構図にある凡例を参照されたい。

９．　遺構・遺物の整理・登録及び報告書での記載には、以下の分類と略号を使用した。

SD：溝跡、D：土師器(ロクロ調整)・赤焼土器、E：須恵器、H：瓦、I：陶器、J：磁器、L：木製品

10.　遺物観察表内の法量の記載で、「」書きの数値は残存値、()書きの数値は復元推定値を示している。

11.　本書内の「擬似畦畔(けいはん)A」は、水田畦畔直上に確認出来る自然堆積層の高まりを、また「擬似畦畔B」は、水田畦畔直下層(自然堆積層)上面に確認出来る高まりを示している(仙台市教育委員会：1987、1997)(佐藤：1999)。

12.　本文中の灰白色火山灰(庄子・山田：1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は西暦915年と推定されている。

庄子貞雄・山田一郎 1980「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」
『多賀城跡 - 昭和54年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所

早田勉 2000「第５章第１節　沼向遺跡・中野高柳遺跡におけるテフラ分析」
『沼向遺跡　第１～３次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史 2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題―十和田aと白頭山(長白頭)を中心に」
『日本律令制の展開』吉川弘文館

目　　次

第１章　調査に至る経過 …… 1
第１節　調査事由 …… 1
第２節　調査要項 …… 1
第２章　遺跡の概要 …… 2
第１節　地理的環境 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の概要 …… 7
第１節　調査方法と調査区設定 …… 7
第２節　調査経過と概要 …… 8
第３節　整理作業 …… 10
第４章　基本層序 …… 10
第１節　基本層序 …… 10
第５章　検出遺構と出土遺物 …… 16
第１節　３層上面 …… 16
第２節　４層上面 …… 16
第３節　６a・６b層上面 …… 18
第４節　11層上面 …… 18
第５節　18層上面 …… 19
第６節　出土遺物 …… 20
第６章　まとめ …… 21

図版目次

第１図　名取川下流域の微地形分類図 …… 3
第２図　富沢遺跡と周辺の遺跡分布図 …… 5
第３図　富沢遺跡全体図 …… 6
第４図　富沢遺跡第157次調査区位置図 …… 7
第５図　調査区配置図 …… 8
第６図　グリッド配置図 …… 9
第７図　調査区南壁・西壁断面図 …… 13・14
第８図　３層上面平面図・SD01断面図 …… 17
第９図　４層上面平面図・打ち込み杭断面図 …… 17
第10図　６ａ・６ｂ層上面平面図 …… 18
第11図　11層上面平面図 …… 19
第12図　18層上面平面図 …… 19
第13図　出土遺物 …… 20
第14図　富沢遺跡における条里制地割復元図 …… 22
第15図　３層上面、６ａ・６ｂ層上面検出水田跡と周辺調査区の状況 …… 23

写真図版目次

写真図版１　調査区南方遠景・調査区南壁断面…… 29
写真図版２　調査完了状況（１）…… 30
写真図版３　調査完了状況（２）…… 31
写真図版４　基本層序…… 32
写真図版５　調査区南壁・西壁基本層序…… 33
写真図版６　調査区南壁基本層序…… 34
写真図版７　調査区西壁基本層序…… 35
写真図版８　３層上面検出遺構・３層中遺物出土状況…… 36
写真図版９　６ａ・６ｂ層上面検出遺構…… 37
写真図版10　４・11・18層上面水田跡確認状況、９・12層上面確認状況、掘削途中、調査区東・北壁断面…… 38
写真図版11　遺物出土状況・出土遺物…… 39

表　目　次

第１表　遺跡地名表…… 5
第２表　土層注記表…… 15
第３表　周辺調査との基本層序対応…… 24

第１章　調査に至る経過

第１節　調査事由

仙台市南部の富沢地区は、かつては水田や耕作地が広がる地域であったが、昭和 62 年 (1987) の地下鉄南北線の開業以降、道路網や交通網の整備が進行し、宅地化が急速に進んだ地域である。

現在富沢遺跡周辺は仙台市内でも数多くの遺跡が集中する地域となっている。昭和 57 年 (1982)、地下鉄の建設工事に伴う試掘調査により水田跡が発見され、翌年「富沢水田遺跡」として登録された。その後の調査により、遺跡周辺を含めて弥生時代の水田跡の下層から縄文時代の遺物や遺構が確認されたことや、中世の遺構などが確認されたことから、昭和 62 年 (1987) に「富沢遺跡」に改称した。

昭和 63 年 (1988) に行われた第 30 次調査において、水田跡の下層（標高７ｍ）から、約二万年前の後期旧石器時代の活動を示す焚火跡と、その周辺から出土した石器以外に当時の環境を復元できる様々な資料が発見され大きく注目された。仙台市は世界的にも貴重な遺跡を保存するため、当初計画されていた小学校建設計画を見直し、発掘されたままの状態で保存と活用を図る施設を整備することとなった。平成８年 (1996)、調査区約 800 ㎡を調査時の姿のまま地下で保存公開し、施設周辺には当時の植生を復元した「仙台市富沢遺跡保存館－地底の森ミュージアム－」が開館し、様々な普及活動を行っている。

その後も継続して発掘調査が行われ、旧石器時代から中近世に至る幅広い時代を対象とした調査が行われてきた。

今回の富沢遺跡第 157 次発掘調査は、仙台市太白区鹿野３丁目 225 －１、225 －６において、株式会社タカラレーベン東北により計画された共同住宅建設工事に伴い、令和４年４月 25 日付けで仙台市教育委員会に、「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（令和４年５月９日付　R4 教生文第 105 － 15 号で回答）が提出されたことに始まる。その後、発掘調査の実施に関する協議を続け、令和４年５月に本発掘調査の実施について協議がまとまり委託契約を締結した。

第２節　調査要項

遺　跡　名：富沢遺跡（宮城県遺跡登録番号 01369　仙台市文化財登録番号 C-301）
所　在　地：宮城県仙台市太白区鹿野３丁目 225 －１、225 －６
調 査 原 因：共同住宅建設
調 査 主 体：仙台市教育委員会
調 査 担 当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係
　　主事　柳澤　楓　　専門員　工藤信一郎
調 査 組 織：株式会社イビソク仙台支店
　　主任調査員　稲垣裕二　　計測員　佐々木和城
調 査 期 間：令和４年７月 11 日～令和４年 10 月 26 日
調 査 面 積：310 ㎡

整 理 担 当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係
主事　柳澤　楓　　専門員　工藤信一郎
整 理 組 織：株式会社イビソク仙台支店
主任調査員　稲垣裕二　　調査補助員　小林あきほ　　計測員　佐々木和城
整 理 期 間：令和４年 10 月 27 日～令和５年３月 15 日

第２章　遺跡の概要

第１節　地理的環境

富沢遺跡は、仙台市南部の仙台市太白区富沢・泉崎・鹿野・長町南地内に所在し、約90haに広がる遺跡で、JR仙台駅から南方に約４km、JR長町駅から西方約１kmの位置にあたる。遺跡の南側を東西方向に流れる名取川は、奥羽山系の南大東岳付近に源を発し、青葉山丘陵と高館丘陵の間の谷口に位置する「余方」付近から平野部に流れ込む。ここから広がる扇状地性の沖積面は、左岸を郡山低地、右岸を名取低地と呼び、遺跡は、南側の名取川と北東側の広瀬川に挟まれた標高約９～16mの群山低地に位置する。後背湿地を中心とし、北西方を丘陵地、南を名取川の支流である笊川の自然堤防によって囲まれている。その両岸には開析された土砂の堆積によって形成された自然堤防が発達している。

第２節　歴史的環境

旧石器時代

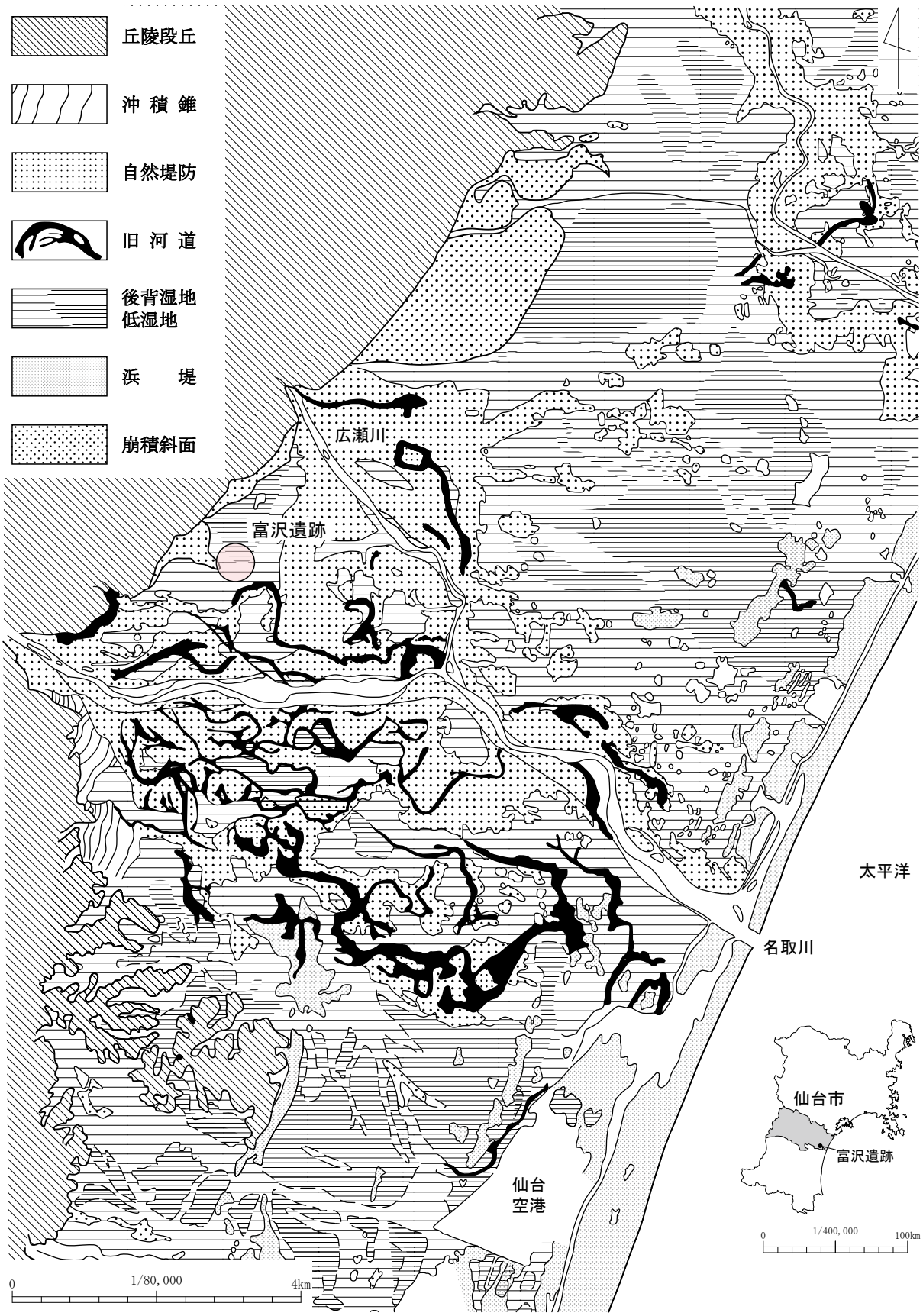
富沢遺跡を含む周辺一帯は、旧石器時代から現代にわたって営みが繰り広げられた地域である。第30次発掘調査では、後期旧石器時代の焚火跡とその周辺から多数の石器が見つかっている。そのほか、当時の環境を示す植物遺体・植物化石・昆虫化石・動物のフンなどが確認され、自然科学的分野においても重要な遺跡である。当時の植生や人類の活動を考えるうえで貴重な成果であり、「仙台市富沢遺跡保存館－地底の森ミュージアム－」として整備・遺跡保存が図られている。

縄文時代

早期前半では、笊川北岸の自然堤防上に立地する下ノ内浦遺跡(第２図15/以下同じ)から竪穴住居跡や落し穴などの遺構が確認されている。前期では、丘陵上に立地する三神峯遺跡(40)があり、竪穴住居跡や土器埋設遺構が確認されている。中期では、下ノ内遺跡(３)・六反田遺跡(９)・山口遺跡(17)などがあり、六反田遺跡では中期中葉と末葉の竪穴住居跡と埋設土器が、山口遺跡では中期末葉の埋設土器が確認されている。後期になると、各遺跡から確認される遺構・遺物の量が多くなる。伊古田遺跡(14)からは、後期中葉の遺物包含層から大型の土偶が４点出土し、仙台市の有形文化財に指定されている。晩期では、山口遺跡で花粉分析の結果から遺跡周辺の後期～晩期の植生が復元されている。

弥生時代

弥生時代では、下ノ内浦遺跡から後期の土壙墓、土器棺墓、竪穴遺構が確認され、当時の墓域であったことが確認されている。富沢遺跡の東側にある郡山遺跡(61)からは、前期の弥生土器と中期中葉以前の水田跡が確認されている。郡山遺跡の北西に隣接する西台畑遺跡(62)や長町駅東遺跡(63)からは、中期中葉の竪穴住居跡と水田跡、土



※原図（松本：1981）
※◯印は富沢遺跡とその周辺を含む位置である（仙台市教育委員会「富沢遺跡第149次発掘調査報告書第２図名取川下流域の微地形分類図」を改編・使用した）

第１図　名取川下流域の微地形分類図

器棺墓と土壙墓によって構成された墓域が確認されている。また、富沢遺跡西方の丘陵上に位置する土手内遺跡(36)では、後期の竪穴住居跡と土坑が確認されている。

古墳時代

富沢遺跡周辺には前期・中期・終末期の集落跡があり、六反田遺跡・伊古田遺跡では前期、下ノ内遺跡・土手内遺跡では前期・中期、六反田遺跡・下ノ内遺跡・王ノ壇遺跡(18)では終末期の竪穴住居跡が確認されている。古墳の分布は北部と南部に二分され、北部の古墳は丘陵縁辺部の国道286号線沿いに分布し、南部は笊川南岸に分布している。丘陵縁辺部の古墳として、５世紀代から６世紀前半にかけて築かれた一塚古墳(32)、二塚古墳(33)、裏町古墳(46)などがある。笊川流域では、埴輪を伴う古墳が５世紀後半から６世紀にかけて集中的に築造されており、五反田古墳(11)や、春日社古墳、鳥居塚古墳、王ノ壇古墳などを含めて大野田古墳群(４)と呼んでいる。

富沢遺跡では、中期～終末期頃と考えられる水田跡や、終末期頃と考えられる畑作関連の小溝状遺構群が確認されている。また、富沢遺跡中央の微高地上に位置する泉崎浦遺跡(19)では、中期頃と考えられる竪穴住居跡が確認されている。

奈良・平安時代

笊川流域の自然堤防上に立地する六反田遺跡、山口遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、下ノ内浦遺跡、元袋遺跡(21)、王ノ壇遺跡、大野田遺跡(22)などでは、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数確認され、集落が営まれていたことが明らかになっている。これらの遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡も確認されており、笊川沿いの自然堤防上は、古墳時代から居住域として利用が継続されていたと考えられる。また、大野田地区周辺では、畑の耕作跡と考えられる小溝状遺構群が広範囲で確認されている。富沢遺跡や山口遺跡からは、真北を基準とした水田跡が確認され条里制地割との関係性が考えられており、航空写真や地図などから条里制地割の復元が行われている。富沢遺跡の東側にある郡山遺跡ではⅠ期官衙からⅡ期官衙への変遷があり、７世紀末葉～８世紀初頭にはⅡ期官衙と郡山廃寺が成立する。また、富沢遺跡の南側にある大野田官衙遺跡(８)からは、真北方向を基準とした複数の大型掘立柱建物跡とそれを囲む溝跡が確認されている。遺物の出土量は比較的少ないが、遺跡の位置関係や建物跡・溝跡の規則性から郡山遺跡のⅡ期官衙との関連性が指摘されている。

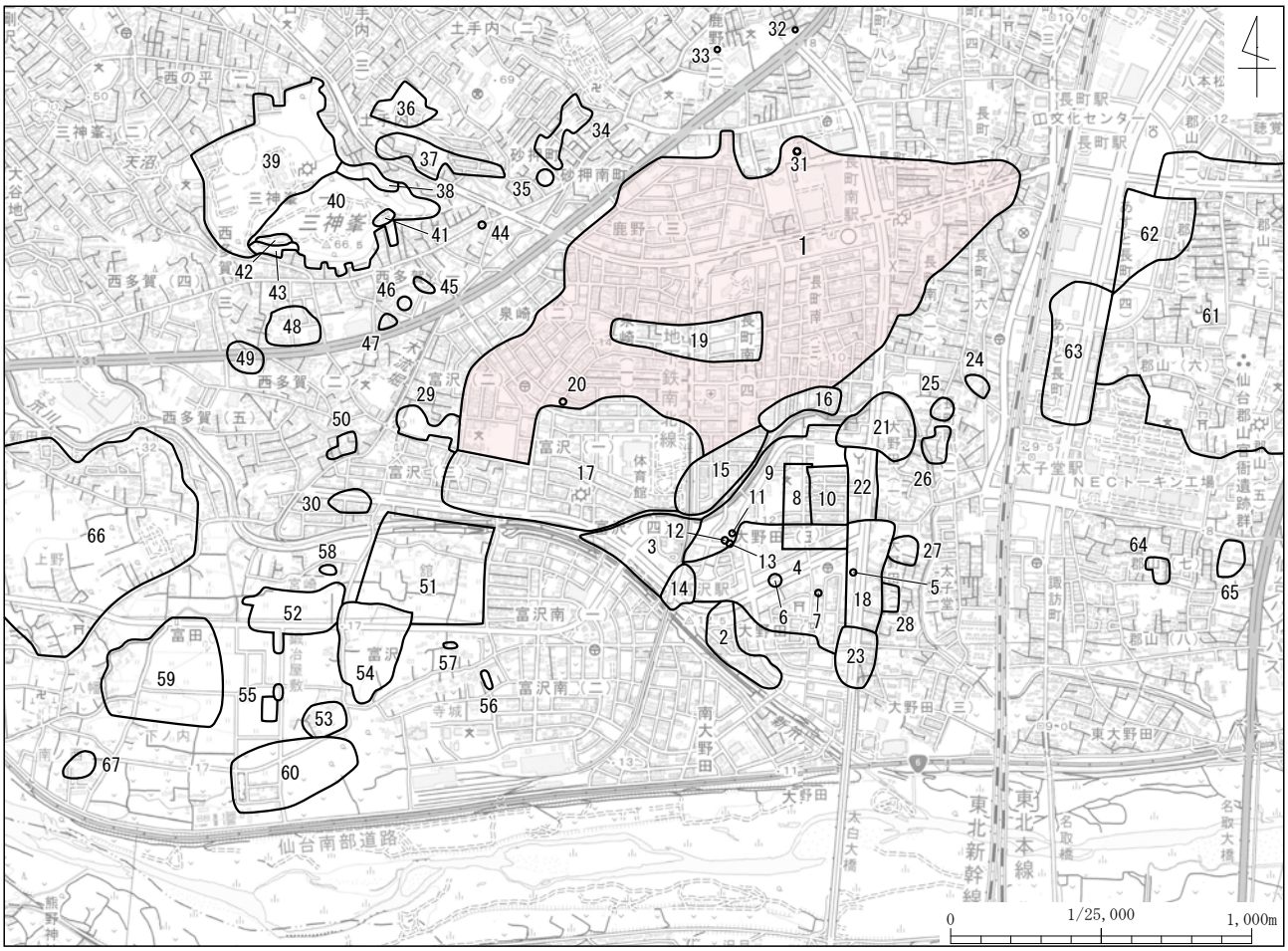
中世以降

富沢遺跡の南側に位置する王ノ壇遺跡からは、12世紀後半～14世紀前半まで存続した屋敷跡と、その西側に南西から北東へ延びる側溝を伴った幹線道路跡が、長さ約360ｍにわたって確認されている。南西に位置する京ノ中遺跡(55)では、掘立柱建物跡や木柵跡、井戸跡が確認されており、小規模な屋敷跡としての様相が明らかとなった。また、掘立柱建物跡の廃絶後に成立した竪穴遺構も確認されており、何らかの機能的な変化が生じた可能性が指摘されている。また、富沢遺跡の北側では、大年寺丘陵上に粟野大膳の居城とされる茂ヶ崎城跡がある。

富沢遺跡では、これまで156次にわたって発掘調査が行われており、中世から近世の水田跡が広範囲で確認されている。ただし、後世の耕作や開発行為によって水田上部が削平されている場合が多く、水田跡の構造を把握出来る類例は少ない。中世の水田跡としては第30次調査と第35次調査で良好な調査結果が得られており、真北もしくはそれに近い方向を基準とした畦畔によって区画された水田面が確認されている。また、第30次調査では水田跡以外に、中世の居住域が確認されている。

近世では、第30次調査で中世から踏襲された水路と大畦畔によって区画された水田跡が確認されている。

なお、富沢遺跡の歴史的環境及び地形と地質に関しては、富沢遺跡第15次調査報告書(仙台市教育委員会:1987)、富沢遺跡第24次調査報告書(仙台市教育委員会:1988)、富沢遺跡第30次調査報告書(仙台市教育委員会:1991)に詳しい記載があるので、これらを参考にされたい。

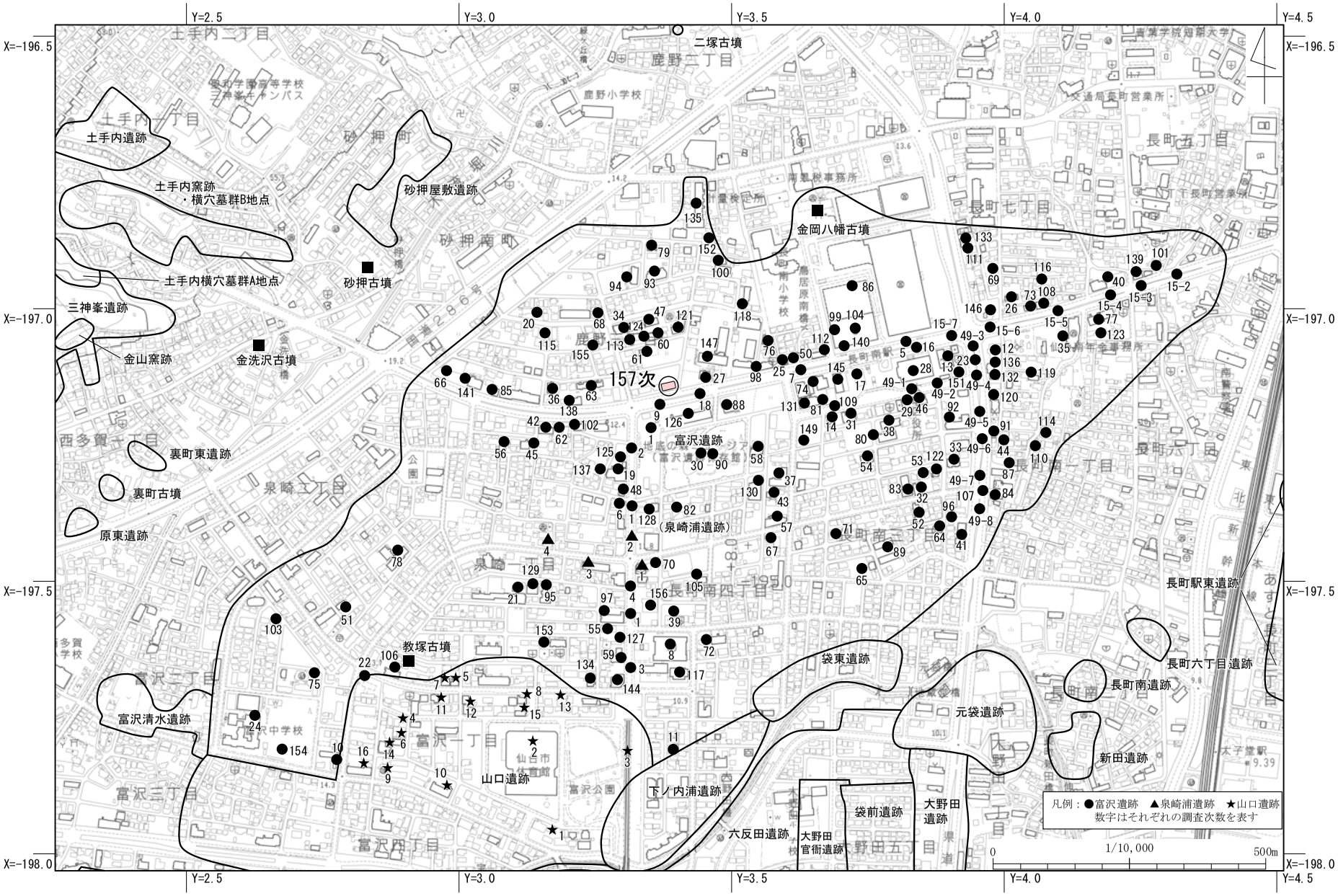


（国土地理院発行地形図「仙台西南部」1/25,000原図　令和２年発行・「仙台東南部」1/25,000原図　平成30年発行を複製・使用した）

第２図　富沢遺跡と周辺の遺跡分布図

第１表　遺跡地名表

番号	遺跡名	立地	種別	時代
1	富沢遺跡	後背湿地	集落跡・水田跡・散布地	旧石器～近世
2	伊古田Ｂ遺跡	自然堤防	畑跡地	古墳～平安
3	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡	縄文（中～晩）～中世
4	大野田古墳群	自然堤防	古墳・集落跡	縄文～中世
5	王ノ壇古墳	自然堤防	古墳	古墳
6	春日社古墳	自然堤防	古墳	古墳
7	鳥居塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
8	大野田官衙遺跡	自然堤防	官衙跡	古墳～奈良
9	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（中～晩）～近世
10	袋前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・古墳～平安
11	五反田古墳	自然堤防	古墳	古墳
12	五反田石棺墓	自然堤防	墓跡	古墳
13	新田北町遺跡	自然堤防	包含地	奈良～平安
14	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文～平安
15	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡・墓跡・水田跡	縄文（早・前・後）～中世
16	袋東遺跡	自然堤防	包含地	奈良～平安
17	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡・散布地	縄文～平安
18	王ノ壇遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文（後）～中世
19	泉崎浦遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡・墓跡	縄文（後）・弥生～古墳・平安
20	敷塚古墳	後背湿地	古墳	古墳
21	元袋遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡・水田跡	奈良～平安
22	大野田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（後）・古墳～平安
23	皿屋敷遺跡	自然堤防	集落跡・生産遺跡・屋敷跡・包含地	奈良～平安・中世
24	長町六丁目遺跡	自然堤防	集落跡	奈良～平安
25	長町南遺跡	自然堤防	集落跡	奈良～平安
26	新田遺跡	自然堤防	集落跡	奈良～平安
27	北屋敷遺跡	自然堤防	集落跡	奈良～平安
28	長町清水遺跡	自然堤防	古墳か	古墳か
29	富沢清水遺跡	自然堤防	集落跡	奈良～平安
30	堀ノ内遺跡	自然堤防	集落跡	古墳～平安
31	金岡八幡古墳	後背湿地	古墳	古墳
32	一塚古墳	丘陵	古墳	古墳
33	二塚古墳	丘陵	古墳	古墳
34	砂押屋敷遺跡	段丘	集落跡	奈良～平安
35	砂押古墳	丘陵	古墳	古墳
36	土手内遺跡	丘陵	集落跡・生産遺跡	縄文～古墳
37	土手内窯跡・横穴墓群Ｂ地点	丘陵斜面	窯跡・横穴墓	古墳～奈良
38	土手内横穴墓群Ａ地点	丘陵斜面	横穴墓	古墳
39	芦ノ口遺跡	丘陵	集落跡	平安
40	三神峯遺跡	段丘	集落跡	縄文
41	金山窯跡	段丘	窯跡	古墳
42	三神峯古墳群	段丘	古墳	古墳
43	富沢窯跡	段丘	窯跡	古墳～平安
44	金洗沢古墳	丘陵	古墳	古墳
45	裏町東遺跡	段丘	集落跡	平安
46	裏町古墳	丘陵	古墳	古墳
47	原東遺跡	段丘	包含地	古墳
48	原遺跡	段丘	集落跡・古墳	弥生～平安
49	西台窯跡	段丘	窯跡	奈良～平安
50	富沢上ノ台遺跡	段丘	散布地	縄文・平安
51	富沢館跡	自然堤防・後背湿地	城館跡	中～近世
52	鍛冶屋敷Ａ遺跡	自然堤防	集落跡・生産遺跡	縄文・奈良～中世
53	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・奈良～中世
54	鍛冶屋敷前遺跡	自然堤防	集落跡・包含地	奈良～中世
55	京ノ中遺跡	自然堤防	自然堤防	平安
56	川前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（晩）
57	川前浦遺跡	自然堤防	散布地	縄文（晩）・古代
58	宮崎遺跡	丘陵	集落跡	平安
59	南ノ東遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡	弥生・平安
60	六本松遺跡	自然堤防	集落跡	平安
61	郡山遺跡	自然堤防	官衙関連・寺院跡・集落跡	縄文（後・晩）・弥生（中）・古墳～近世
62	西台畑遺跡	自然堤防	集落跡・古墳・墓跡・包含地	縄文・弥生（中）・古墳～近世
63	長町駅東遺跡	自然堤防・後背湿地	集落・水田跡	弥生～中世
64	的場遺跡	自然堤防	集落跡	奈良～平安
65	鶴ノ源遺跡	自然堤防	集落跡	古墳～平安
66	上野遺跡	段丘	集落跡	縄文・奈良・平安・近世
67	富田南西遺跡	自然堤防	散布地	奈良～平安



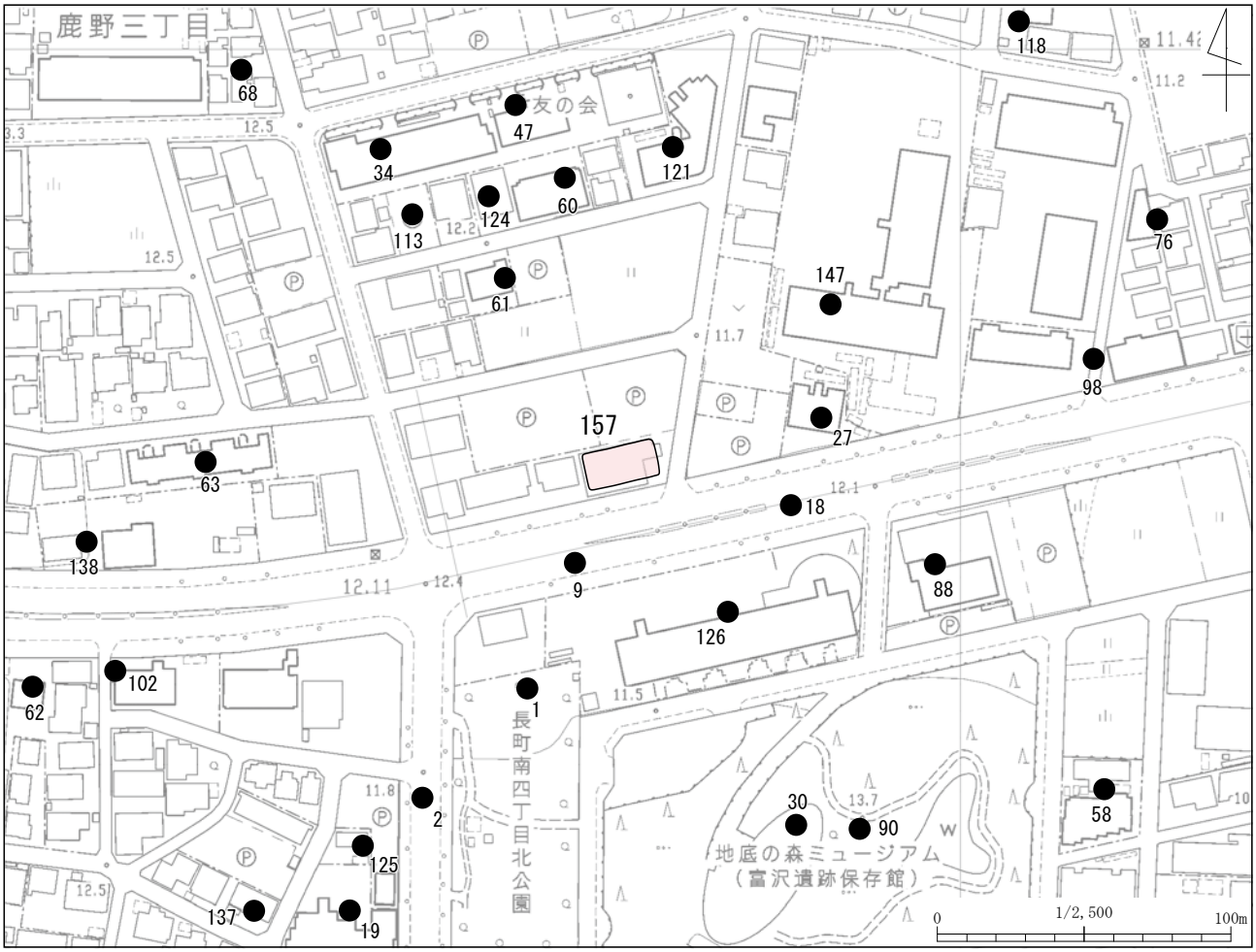
第３図　富沢遺跡全体図（仙台市都市計画基本図「南部」1:10,000原図　平成28年発行、仙台市教育委員会「富沢遺跡第149次発掘調査報告書　第４図　富沢遺跡調査区位置図」を改編・使用した）

第３章　調査の概要

第１節　調査方法と調査区設定

今回の調査対象範囲は、周辺の調査成果から弥生時代～中近世に至る最大７面の水田面が想定された。始めにアスファルトを路面切削機で切断し、砕石整地層と合わせて重機で掘削・除去した。その後、区画整理に伴う盛土層を掘削した後に人力での掘削を開始した。調査区外周に土層観察及び排水用の側溝を設置し、壁面を観察しながら水田面及び下層の記録作成・写真撮影を行った。撮影は、デジタル一眼レフカメラ、35mmフィルムカメラ２台(カラーポジ・モノクロ)を用いて行った。また、水田跡の区画・規模を記録・比較する目的として、ドローン(Mavic3)による写真撮影を行った。

計測作業は、世界測地系座標を基に設置された基準点から、今回の調査で必要な位置に複数箇所新点を設置し、グリッドの設定、遺構平面・調査区壁断面記録、遺物出土地点記録を行った。使用機材は、トータルステーション：(Trimble S6)と、記録・編集ソフト：(TREND-ONE Ver.6・IJCAD 2022 STD)である。調査区のグリッドは、世界測地系(測地成果2011)を基に設定した。調査区北西のX=-197130、Y=3365を原点として方眼を組み込んだ。グリッドの表示は、北から南へアラビア数字で1・2・3…、西から東へアルファベット大文字でA・B・C…とし、それらを組み合わせてA1・B1とした。

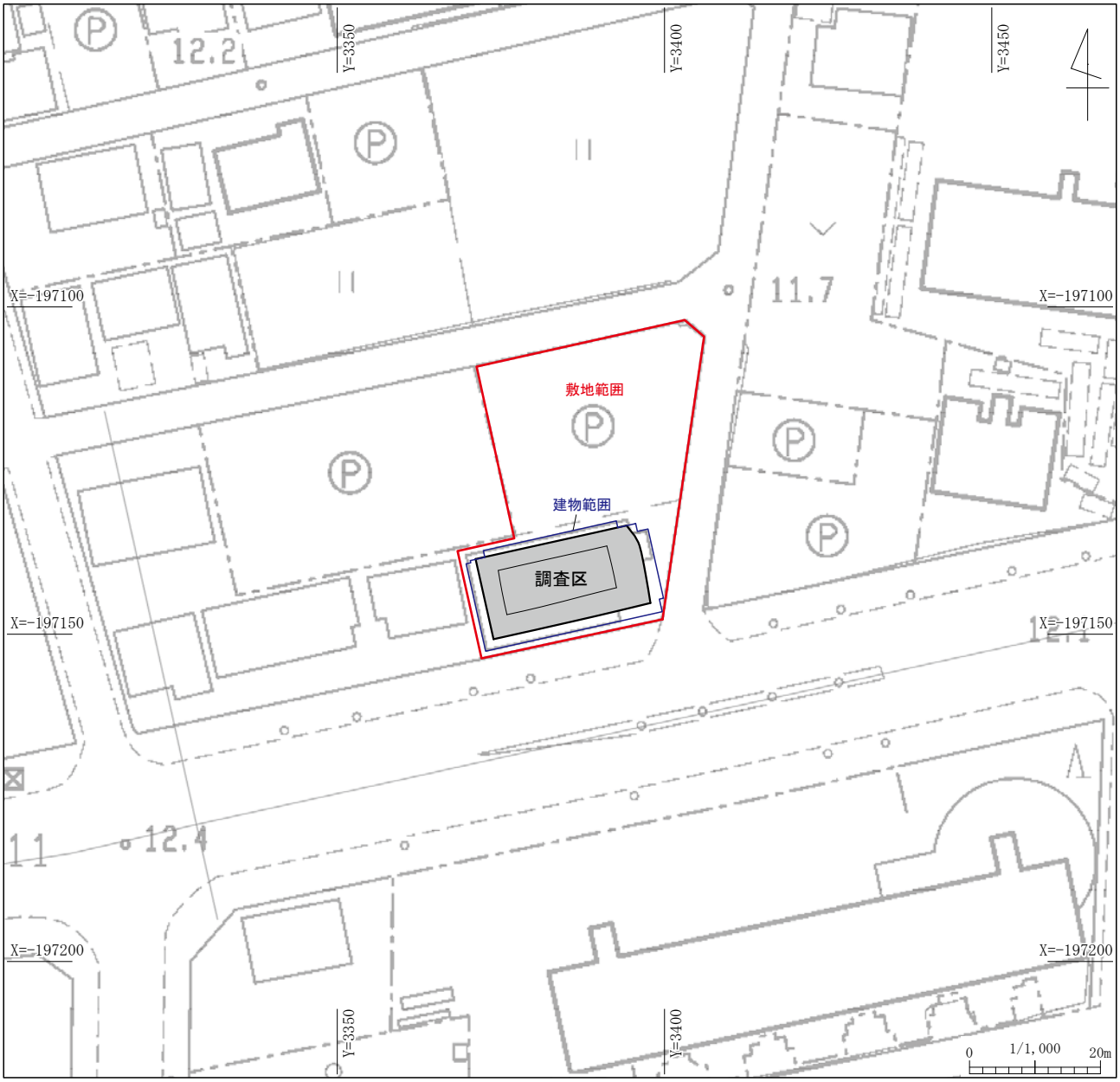


（図中の数字は調査次数を示す、仙台市都市計画基本図「仙台市太白区」1/2,500原図　平成28年発行を複製・使用した）

第４図　富沢遺跡第157次調査区位置図

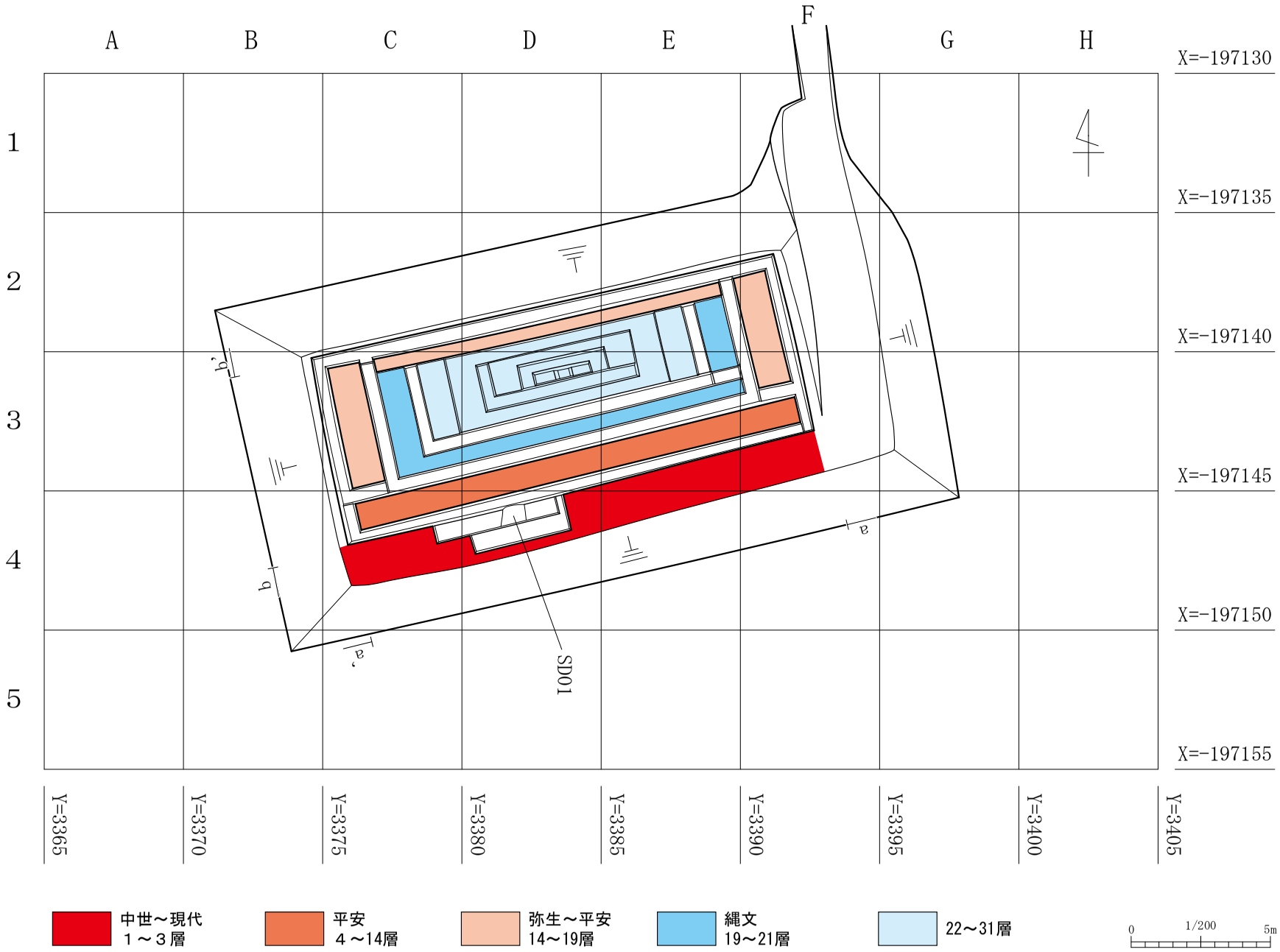
第２節　調査経過と概要

令和４年６月29日に基準点測量と調査区設定を行い、７月11日より重機掘削を開始した。計６面で水田耕作土を確認した。その内、３層上面で畦畔１条と溝跡１条、６ａ・６ｂ層上面で畦畔２条を確認した。４・８・９層上面では、畦畔及び擬似畦畔Ａ・Ｂの検出を行ったが、畦畔を確認することは出来なかった。その後、11・18層を水田土壌と想定し検出を行ったが、畦畔及び擬似畦畔Ａ・Ｂを確認することは出来なかった。９月14日までに水田調査を完了させ同日から下層調査を開始した。段階的に調査区を縮小し調査状況の撮影・記録をとりながら掘り下げを行い、30次調査における旧石器調査面相当の標高まで掘り下げたが、旧石器時代に相当する層を確認することは出来なかった。10月５日に調査完了状況を撮影した後、測量作業・補足調査・人力による下層埋め戻し作業を14日までに完了させた。その後、21日までに重機による埋戻しを、26日までに仮設施設・資機材一式の搬出と仮設電柱の撤去・水道使用停止処理・仮設フェンス撤去を終え、撤収作業を完了させた。



（仙台市都市計画基本図「仙台市太白区」1/2,500原図　平成28年発行を複製・使用した）

第５図　調査区配置図


A
B
C
D
E
F
G
H
1
2
3
4
5
X=-197130
X=-197135
X=-197140
X=-197145
X=-197150
X=-197155
Y=3365
Y=3370
Y=3375
Y=3380
Y=3385
Y=3390
Y=3395
Y=3400
Y=3405
SD01
a
a'
b
b'
中世～現代
１～３層
平安
４～14層
弥生～平安
14～19層
縄文
19～21層
22～31層
0
1/200
5m

第６図　グリッド配置図

第３節　整理作業

報告書作成に向けた整理作業については、仙台市若林区上飯田に所在する株式会社イビソク仙台支店で行った。

遺構平面図及び調査区壁断面図は、現地で計測したデータをTREND-ONE Ver.6で座標計算した後、IJCAD 2022 STDで編集した。調査時の所見をもとに、調査区壁断面の堆積状況を確認して、Adobe社製「Illustrator」上で各層ごとの遺構図を作製した。

出土遺物は、コンテナ１箱で平安時代の土師器が主体である。遺物は洗浄作業を行い、乾燥状態を確認した後に、接合関係を確認し注記・接合作業を行った。注記は、作業前に仙台市担当者と記載内容を確認した上で実施した。接合は陶器・磁器・土師器ごとに分類した後、種別ごとに作業を行った。接合作業と並行して、遺物の簡易撮影を行い資料化しながら、抽出及び種類別集計作業を行った。接合のみで十分な強度を確保出来ない遺物に関しては、充填剤を用い復元(充填)作業を行った。その後、実測図・デジタルトレース図を作成し、遺物撮影後に遺物図版・写真図版を作成した。実測図未掲載の抽出遺物は写真撮影・登録集計、または登録集計のみのいずれかの記録保存とした。遺物実測には、適宜ORTHOIMAGER300(完全正射投影・深焦点システム)で撮影した画像データを用いた。また、Adobe社製の画像編集ソフト「Photoshop」を用いてデジタル正射投影画像から陶器文様の抽出や拓本加工を行った。実測図トレースは、同社製の「Illustrator」で線画を作成し、同時に前述した文様・拓本の抽出・加工画像のはめ込みを行った。

整理作業中は、必要に応じて仙台市担当者と作業内容の確認と協議を行い、各種成果品については仙台市担当者による点検を受けている。

本書掲載遺構図の縮尺は、全体図1/200、各遺構図1/150、調査区壁面断面図1/50、個別断面図1/40・1/60とした。遺物実測図の縮尺は1/3を用いた。

報告書レイアウト作業は、Adobe社製の「InDesign」を用いた。

第４章　基本層序

第１節　基本層序（第７図、写真図版４～７）

今回の調査で確認した基本層序は、区画整理に伴う盛土層直下の１～31層である。６層のみ調査区西側において色調の違いが壁面などで確認出来たため、同一面での確認となったが、本来は検出面が異なり時期差があると考えａ・ｂに細別した。崩落防止のため段を設け調査区を縮小しながら調査を進めたが、湧水と安全確保に必要な面積が確保出来なかったことから、安全面を考慮し31層より下位層は調査を行わなかった。１～18層までは西から東へ緩く傾斜し、19～31層はほぼ水平に堆積する。各層の調査については、下記のとおり行っている。

１段目１～13層　２段目14～18層　３段目19～21層　４段目22～24層　５段目25～27層　６段目28～31層

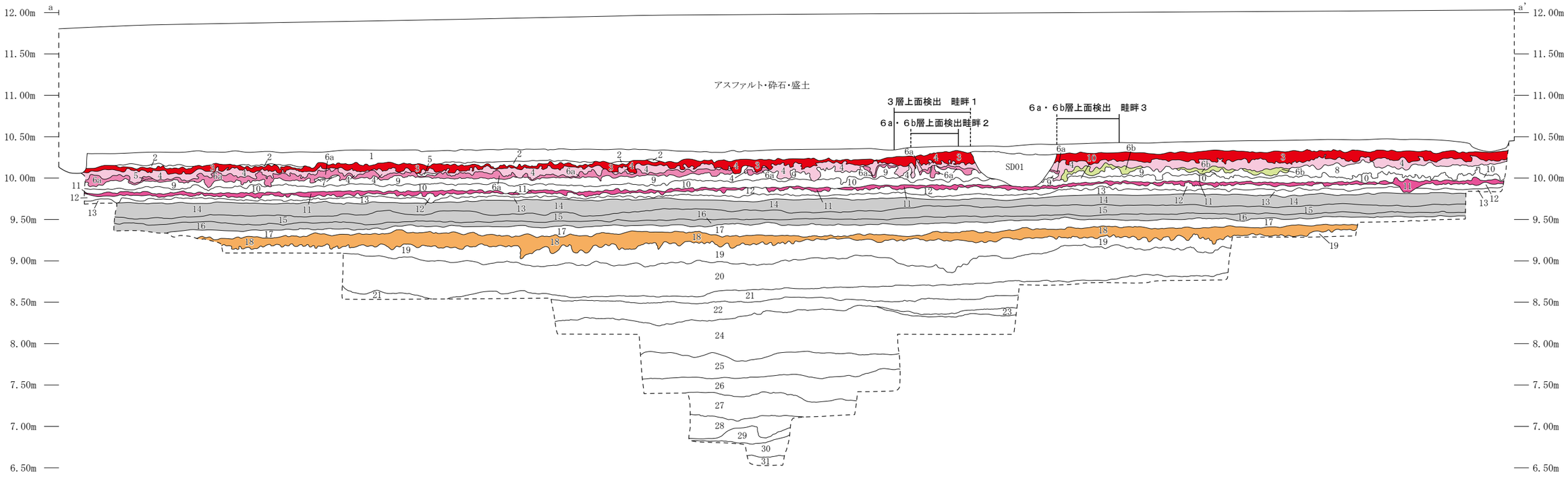
また、調査地点より南約120ｍで実施された第30次調査（現在は「仙台市富沢遺跡保存館－地底の森ミュージアム－」となっている）では、埋没林とともに旧石器時代に相当する層を確認しているが、調査区内では表土下5.5ｍ（標高6.7ｍ程度）まで掘り下げたが確認することは出来なかった。

１層：シルト層で、色調は褐灰色(10YR4/1)である。粘性は無く、しまりは強い。層厚は15～30cmほどで、調査区

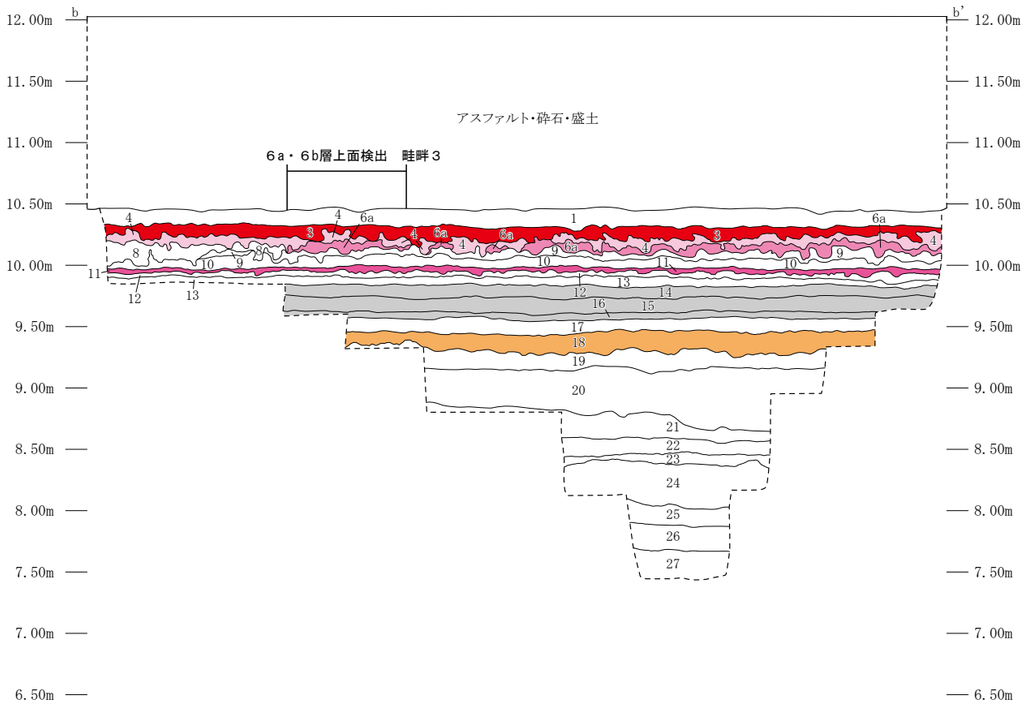
全域に分布する。ビニール材を少量含むことから現代の整地層(旧表土)と考えられる。
２層：シルト層で、色調は褐灰色(10YR5/1)である。粘性は無く、しまりは強い。層厚は5～10cmで、E・F3グリッド付近に分布する。自然堆積層である。
３層：粘土層で、色調は黒褐色(10YR3/2)である。粘性・しまりともある。層厚は５～30cmほどで、調査区全域に分布する。４層に含まれる灰白色火山灰と植物遺体を少量含み、層下面の起伏が顕著である。中世～近世の水田耕作土と考えられ、本層上面が水田面１の検出面である。
４層：粘土層で、色調は暗灰黄色(2.5Y5/2)である。粘性・しまりともある。層厚は１～20cmほどで、調査区全域に分布する。C・D3グリッド付近にφ１～10cmほどの灰白色火山灰ブロックの混入が確認出来る。層下面の起伏が顕著である。本層上面が水田面２の検出面である。
５層：粘土層で、色調は黄灰色(2.5Y4/1)である。粘性・しまりともある。層厚は５cmほどで、F3グリッド付近のみに分布する。調査区南壁断面東側を観察した結果、６ａ層とともに山なりに堆積しており畦畔を構成している可能性も考えられるが、部分的な堆積で判然としなかったため自然堆積層と判断した。
６ａ層：粘土層で、色調は黒褐色(10YR3/1)である。粘性・しまりともある。層厚は２～15cmほどで、C4グリッド付近を除く範囲に分布する。植物遺体を少量含み、層下面の起伏が顕著である。本層上面が水田面３の検出面である。
６ｂ層：粘土層で、色調は黒褐色(10YR3/2)である。粘性・しまりともある。層厚は２～12cmほどで、C4グリッド付近のみに分布する。層下面の起伏が顕著である。６ａ層よりやや明るい色調であることから細別し、水田面４とした。
７層：粘土層で、色調は黄灰色(2.5Y5/1)である。粘性・しまりともある。層厚は２～８cmほどで、E3グリッド付近のみに分布する。調査区南壁断面東側を観察した結果、９層とともに山なりに堆積しており畦畔を構成している可能性も考えられるが、部分的な堆積で判然としなかったため自然堆積層と判断した。
８層：粘土層で、色調は黄灰色(2.5Y4/1)である。粘性は弱く、しまりがある。層厚は５～25cmほどで、C3グリッド付近のみに分布する。層下面にやや起伏が見られるが自然堆積層と判断した。
９層：粘土層で、色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)である。粘性は弱く、しまりがある。層厚は５～20cmほどで、C3グリッド付近を除く範囲に分布する。植物遺体を少量含み、層下面の起伏が顕著である。水田耕作土と想定して検出を行ったが、畦畔を確認することが出来ず、周辺の調査成果でも同様の色調・土質から成る水田土壌の報告が無かったことから自然堆積層と判断した。
10層：粘土層で、色調は黒色(10YR2/1)である。粘性・しまりともある。層厚は８～20cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を少量含む自然堆積層である。
11層：粘土層で、色調は褐灰色(10YR4/1)である。粘性・しまりともある。層厚は２～８cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を少量含む。層下面の起伏は顕著である。本層上面が水田面５の検出面である。
12層：粘土層で、色調は黒色(10YR2/1)である。粘性・しまりともある。層厚は２～10cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を少量含む自然堆積層である。
13層：粘土層で、色調は褐灰色(10YR4/1)である。粘性・しまりともある。層厚は２～10cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を少量含む自然堆積層である。
14層：泥炭質粘土層で、色調は黒褐色(10YR2/3)である。やや粘性があり、しまりがある。層厚は７～20cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を多量に含む自然堆積層である。
15層：泥炭質粘土層で、色調は灰黄褐色(10YR4/2)である。やや粘性があり、しまりがある。層厚は５～15cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を多量に含む自然堆積層である。

16層：泥炭質粘土層で、色調は黒褐色(10YR3/1)である。やや粘性があり、しまりがある。層厚は４～10cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を多量に含む自然堆積層である。
17層：粘土層で、色調は黒色(10YR2/1)である。やや粘性があり、しまりがある。層厚は４～15cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を少量含む自然堆積層である。
18層：粘土層で、色調は灰黄褐色(10YR5/2)である。やや粘性があり、しまりがある。層厚は２～30cmほどで、調査区全域に分布する。植物遺体を少量含み、層下面の起伏は顕著である。本層上面が水田面６の検出面である。
19層：粘土層で、色調は灰オリーブ色(5Y6/2)である。やや粘性があり、しまりは強い。層厚は８～37cmほどで、３段目掘削時に確認した自然堆積層である。部分的に暗褐色(10YR3/3)を呈する。
20層：シルト層で、色調は明オリーブ灰色(5GY7/1)である。粘性は弱く、しまりが強い。層厚は15～45cmほどで、灰白色砂を部分的に含む自然堆積層である。
21層：シルト層で、色調は暗オリーブ灰色(5GY4/1)である。粘性は弱く、固くしまる。層厚は４～20cmほどで、φ0.5～１cmの礫と植物遺体を少量含む自然堆積層である。
22層：シルト層で、色調は暗緑灰色(10G4/1)である。粘性は無く、固くしまる。層厚は６～27cmほどで、部分的に緑灰色(10G6/1)を呈する。自然堆積層である。
23層：シルト層で、色調は明オリーブ灰色(2.5GY7/1)である。やや粘性があり、しまりは強い。層厚は２～10cmほどの自然堆積層である。
24層：シルト層で、色調はオリーブ灰色(5GY5/1)である。やや粘性があり、しまりは強い。層厚は30～55cmほどで、黒褐色(10YR3/2)シルトブロックを多量に含む。４段目掘削時に確認した自然堆積層である。
25層：シルト層で、色調はオリーブ灰色(5GY6/1)である。やや粘性があり、しまりは強い。層厚は20～30cmほどで、灰白色砂を部分的に含む。自然堆積層である。
26層：シルト層で、色調はオリーブ灰色(5GY6/1)である。やや粘性があり、しまりは強い。層厚は18～30cmほどで、25層より灰白色砂を多量に含む。自然堆積層である。
27層：粘土層で、色調はオリーブ灰色(2.5GY5/1)である。粘性・しまりとも強い。層厚は25～30cmほどで、灰白色砂を帯状に含む。自然堆積層である。
28層：粘土層で、色調は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)である。粘性・しまりとも強い。層厚は８～30cmほどで、灰白色砂を多量に含む。自然堆積層である。
29層：粘土層で、色調は褐灰色(10YR5/1)である。粘性・しまりとも強い。層厚は２～20cmほどで、植物遺体を少量含む。自然堆積層である。
30層：粘土層で、色調は灰黄褐色(10YR4/2)である。粘性・しまりとも強い。層厚は７～25cmほどで、植物遺体を微量含む。自然堆積層である。
31層：粘土層で、色調はオリーブ灰色(5GY6/1)である。粘性・しまりとも強い。層厚は８cm以上である。φ0.5～１cmの礫を少量含む。自然堆積層である。

調査区南壁断面



調査区西壁断面



掘り下げ順
１段目：１～13層
２段目：14～18層
３段目：19～21層
４段目：22～24層
５段目：25～27層
６段目：28～31層

- ：３層　水田面１
- ：４層　水田面２　※灰白色火山灰混入
- ：６a層　水田面３
- ：６b層　水田面４
  - 同一面で検出
- ：11層　水田面５
- ：14～16層　※植物遺体を多量に含む・すくも層
- ：18層　水田面６

0　1/50　2m

第７図　調査区南壁・西壁断面図

第２表　土層注記表

大別層	細別層	色調	土質	備考
1	－	10YR4/1 褐灰色	シルト	細砂を多量に含む　区画整理以前の現代整地層
2	－	10YR5/1 褐灰色	シルト	細砂を少量含む　自然堆積層
3	－	10YR3/2 黒褐色	粘土	φ 0.5 ～ 1cm の礫と植物遺体、下位 4 層に含まれる灰白色火山灰ブロックを少量含む 水田面１
4	－	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土	φ 1 ～ 10cm の灰白色火山灰ブロックを部分的（西側）に含む、植物遺体を少量含む　水田面２
5	－	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
6	a	10YR3/1 黒褐色	粘土	φ 1 ～ 2cm の下位 10 層ブロックと植物遺体を少量含む　水田面 3
	b	10YR3/2 黒褐色	粘土	φ 1 ～ 2cm の下位 9・10 層ブロックと植物遺体を少量含む　水田面 4
7	－	2.5Y5/1 黄灰色	粘土	φ 0.5 ～ 1cm の礫を微量含む　自然堆積層
8	－	2.5Y4/1 黄灰色	粘土	φ 1 ～ 2cm の下位 11 層ブロックと植物遺体を少量含む　自然堆積層
9	－	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
10	－	10YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
11	－	10YR4/1 褐灰色	粘土	植物遺体を少量含む　水田面 5
12	－	10YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
13	－	10YR4/1 褐灰色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
14	－	10YR2/3 黒褐色	泥炭質粘土	植物遺体を層全体に含む　自然堆積層
15	－	10YR4/2 灰黄褐色	泥炭質粘土	植物遺体を層全体に含む　自然堆積層
16	－	10YR3/1 黒褐色	泥炭質粘土	植物遺体を多量に含む　自然堆積層
17	－	10YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
18	－	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	植物遺体を少量含む　水田面 6
19	－	5Y6/2 灰オリーブ色	粘土	φ 1mm 以下の礫と植物遺体を微量含む　自然堆積層
20	－	5GY7/1 明オリーブ灰色	シルト	2.5Y7/1 灰白色砂を部分的に含む、植物遺体を微量含む　自然堆積層
21	－	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	φ 0.5 ～ 1cm の礫と植物遺体を少量含む、非常に固く締まった層　自然堆積層
22	－	10G4/1 暗緑灰色	シルト	φ 0.5 ～ 1cm の礫を少量含む、非常に固く締まった層　自然堆積層
23	－	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	シルト	調査区西側のみに堆積、やや締まった層　自然堆積層
24	－	5GY5/1 オリーブ灰色	シルト	φ 5 ～ 10cm の 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多量に含む、やや締まった層　自然堆積層
25	－	5GY6/1 オリーブ灰色	シルト	2.5Y7/1 灰白色砂を部分的に含む、植物遺体を少量含む、やや締まった層　自然堆積層
26	－	5GY6/1 オリーブ灰色	シルト	2.5Y7/1 灰白色砂を多量に含む、植物遺体を少量含む、やや締まった層　自然堆積層
27	－	2.5GY5/1 オリーブ灰色	粘土	2.5Y7/1 灰白色砂を帯状に含む　自然堆積層
28	－	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土	2.5Y7/1 灰白色砂を多量に含む　自然堆積層
29	－	10YR5/1 褐灰色	粘土	植物遺体を少量含む　自然堆積層
30	－	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	植物遺体を微量含む　自然堆積層
31	－	5GY6/1 オリーブ灰色	粘土	φ 0.5 ～ 1cm の礫を少量含む　自然堆積層

第５章　検出遺構と出土遺物

確認した水田土壌は、３層、４層、６ａ・６ｂ層、11層、18層である。６ａ・６ｂ層は同一面での検出であり、両層とも同じ黒褐色を基調とする粘土が耕作土であるが、６ｂ層の方がやや明るい。畦畔は、３層上面で南北に延びる畦畔を１条、６ａ・６ｂ層上面で東西に延びる畦畔１条とそれに直行する南北に延びる畦畔１条を確認した。但し、６ａ・６ｂ層上面で確認した南北に延びる畦畔は不明確な検出となり、推定線としての意味合いが大きい。また、４・11・18層では、畦畔などを確認することは出来なかったが、堆積状況から水田土壌と考えた。確認した水田土壌は、いずれも西から東へ緩やかに傾斜しており、３層上面では調査区西端は東端に比べ約17cm高い。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・瓦があり、３層上面で確認した南北に延びる畦畔より東側からの出土が顕著である。

以下に、畦畔を確認した３層上面と６ａ・６ｂ層上面、及び４層上面、11層上面、18層上面について検出順に記述する。

第１節　３層上面

３層水田跡（第８図、写真図版８）

確認した水田跡は、調査区中央D3グリッド付近で、南北方向に延びる畦畔１条によって東西にわけられた区画①(西側)・区画②(東側)の計２区画である。畦畔１は、上端幅38～54cm、下端幅116～141cm、水田面からの高さは、2.0～3.0cmで、方向はN-10°-Eである。区画①・②ともに方形の区画と考えられるが、調査区の外に広がるため区画面積はいずれも不明である。標高は、区画①が10.25～10.30m、区画②が10.125～10.175mで、いずれも西から東へ緩く傾斜し、畦畔を境に高低差が出来ている。遺物は近世と考えられる陶器皿の底部や、古代と考えられる土師器の破片が出土した。

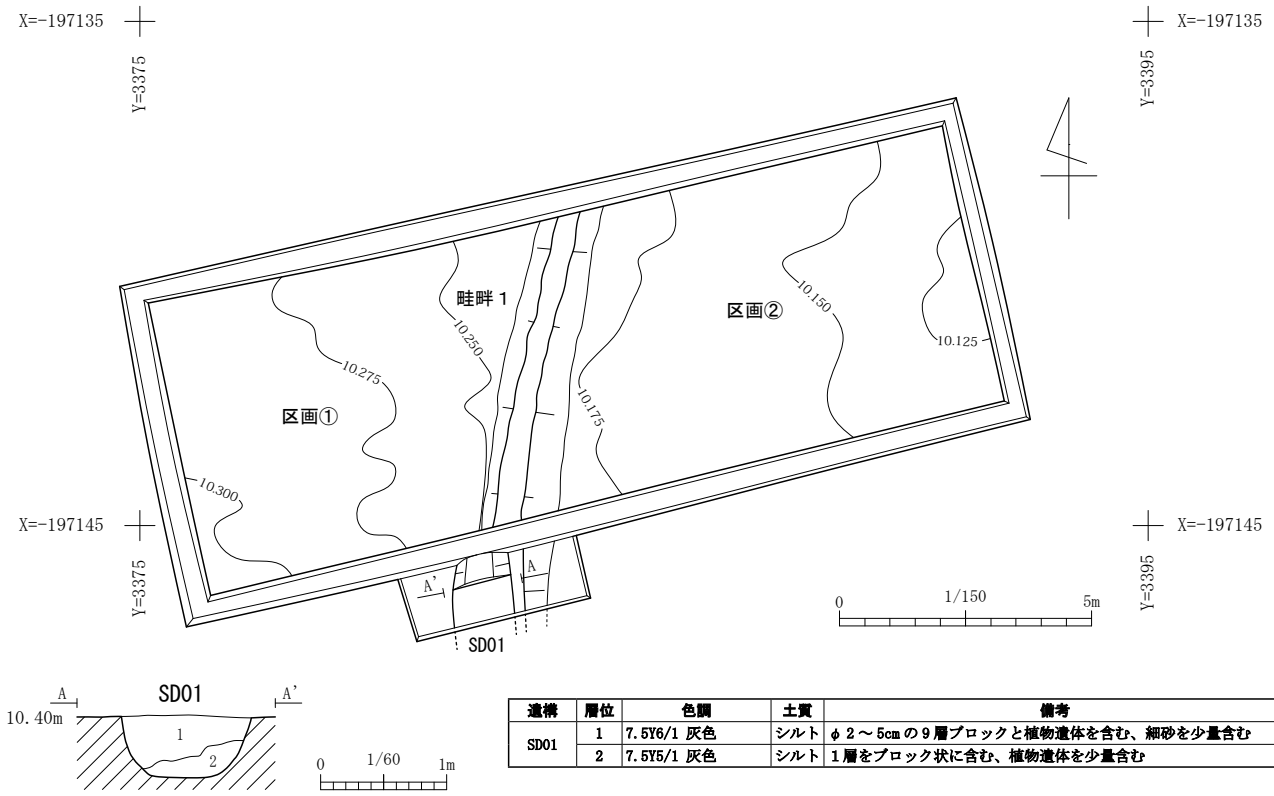
SD01 溝跡（第８図、写真図版８）

D4グリッドに位置する。北北西から南南東方向に延びる溝跡である。方向はN-３°-Wである。規模は、長さ1.18m以上、幅1.19m、深さ41cmで、底面は平坦である。断面形はU字形を呈する。堆積土は２層で、両層とも灰色シルトである。１層は基本層９層をブロック状に含む。D4グリッドで実施した補足調査で平面形を確認したが、基本層３層調査時に平面形を確認出来ず、また、調査区北壁断面に基本層３層を掘り込む遺構断面が確認出来なかったことから、本遺構はD4グリッド北側サブトレンチ内で収束するものと考えられる。遺物は１層から土師器が１点出土したが、細片のため器種・時期とも不明である。

第２節　４層上面

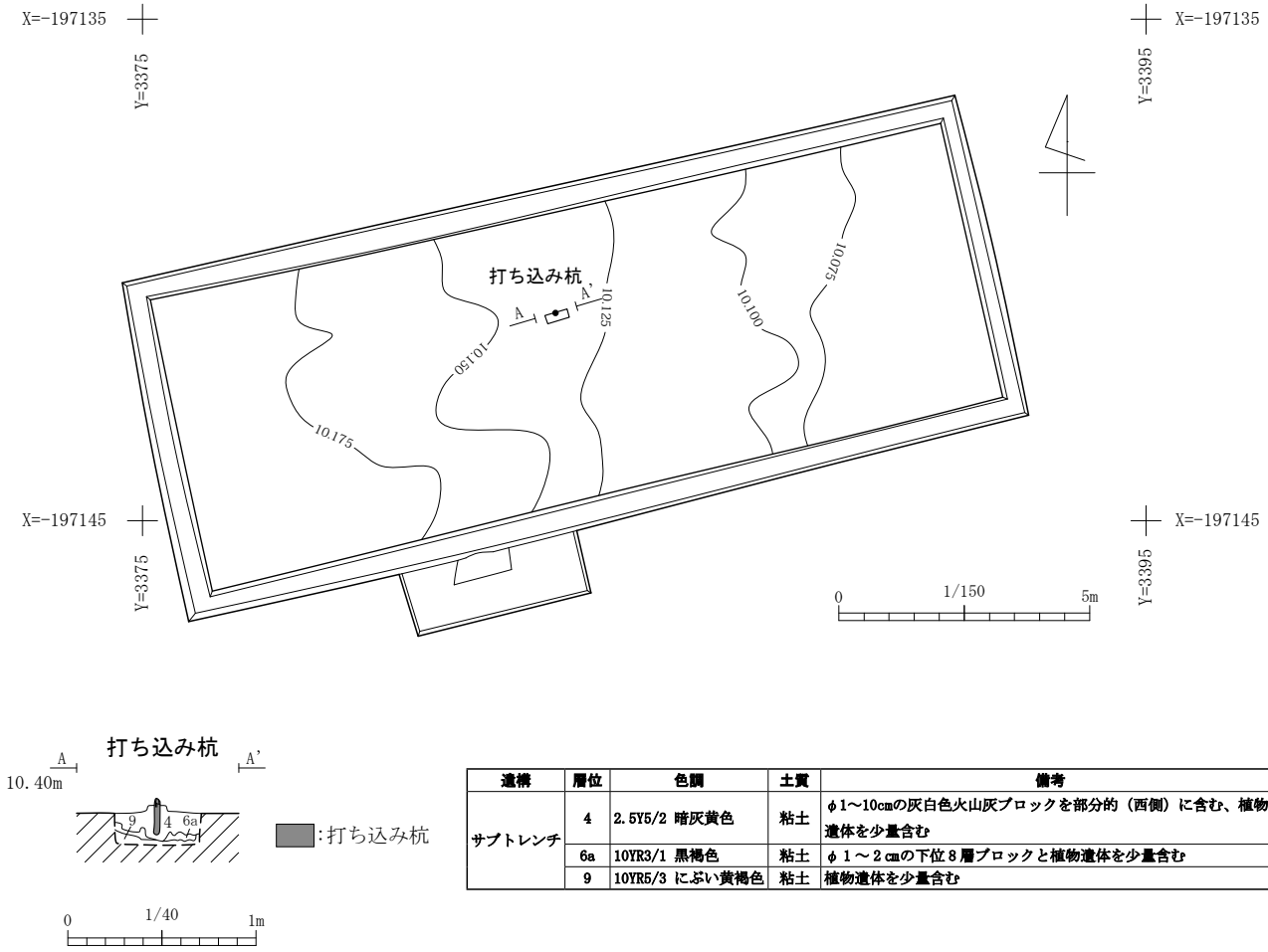
４層水田跡（第９図、写真図版 10）

４層は、暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土層で調査区全体に堆積する。水田土壌と考えられるが、畦畔および遺構を確認することは出来なかった。調査区西側では、灰白色火山灰を多量に含む。検出面は、西から東へ緩く傾斜しており、西側の標高は10.175m、東側の標高は10.075mである。検出中に１点打ち込み杭を確認したが、杭列を確認することは出来なかった。遺物は土師器破片が出土した。



遺構	層位	色調	土質	備考
SD01	1	7.5Y6/1 灰色	シルト	φ２～5cmの９層ブロックと植物遺体を含む、細砂を少量含む
	2	7.5Y5/1 灰色	シルト	１層をブロック状に含む、植物遺体を少量含む

第８図　３層上面平面図・SD01断面図



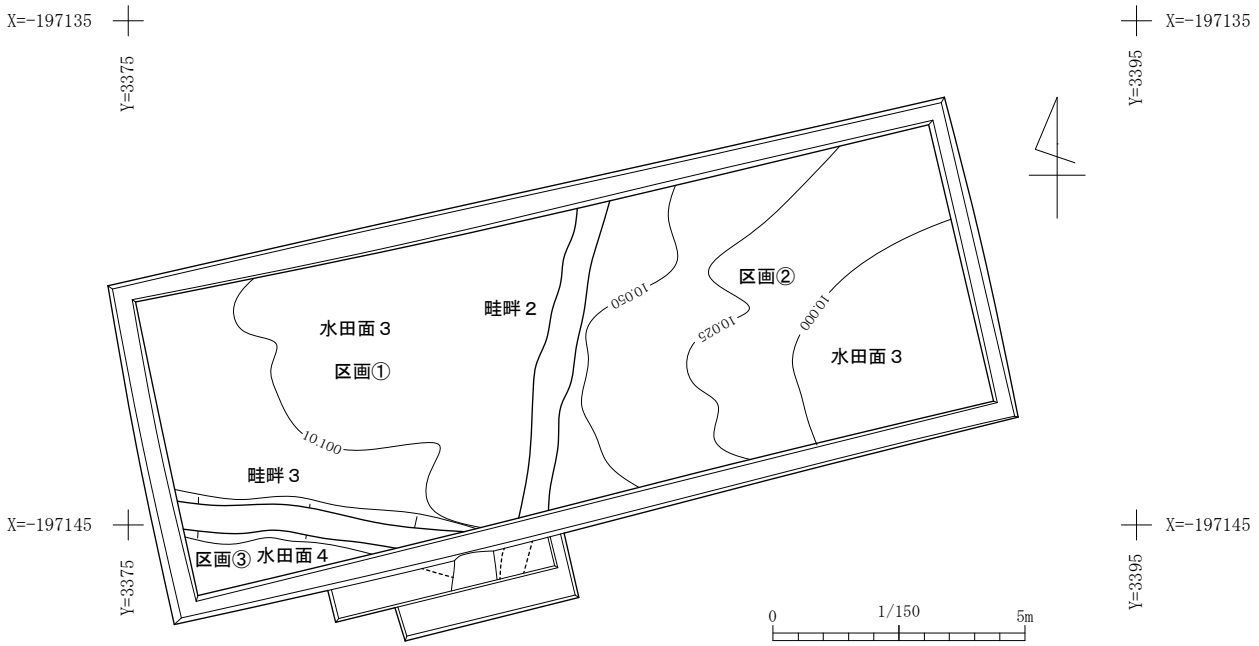
遺構	層位	色調	土質	備考
サブトレンチ	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土	φ1～10cmの灰白色火山灰ブロックを部分的（西側）に含む、植物遺体を少量含む
	6a	10YR3/1 黒褐色	粘土	φ１～２cmの下位８層ブロックと植物遺体を少量含む
	9	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	植物遺体を少量含む

第９図　４層上面平面図・打ち込み杭断面図

第３節　６ａ・６ｂ層上面

６ａ・６ｂ層水田跡（第 10 図、写真図版９）

確認した水田跡は、調査区中央D3グリッド付近で南北方向に延びる畦畔１条によって東西にわけられた区画①(西側)・区画②(東側)と、区画①をC3グリッド付近で東西方向に延びる畦畔１条によって南北にわける区画③(南側)の計３区画である。堆積土は区画①・②は６ａ層、区画③は６ｂ層で、同一面での検出だが本来は時期差がある可能性が考えられる。南北方向に延びる畦畔２は、上位４層の耕作による撹拌(かくはん)の影響から下端のみの検出で、幅45～70cm、方向はN-10°-Eである。東西方向に延びる畦畔３は、上端幅42～51cm、下端幅75～84cm、水田面からの高さ1.0～2.0cmで、方向はN-84°-Wである。区画①～③とも方形の区画と考えられるが、調査面積に限りがあり区画面積はいずれも不明である。標高は、区画①・③が10.05～10.10m、区画②が10.00～10.05mで、いずれも西から東へ緩く傾斜している。遺物はモモの種が出土した。

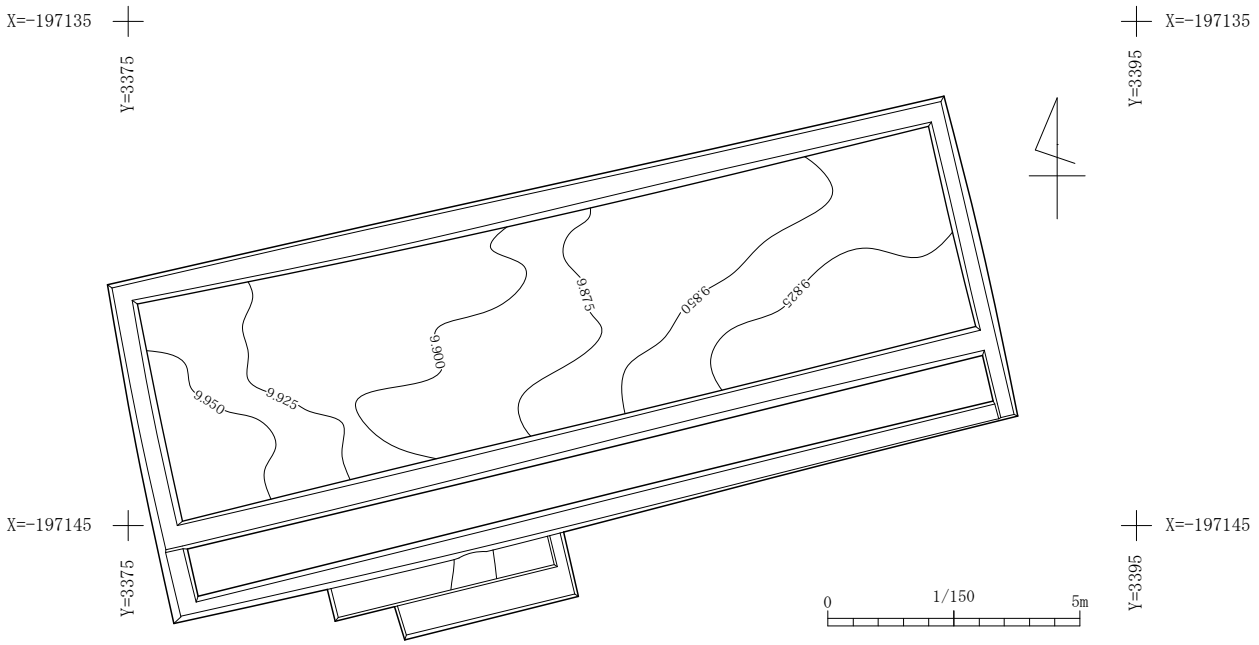


第10図　６ａ・６ｂ層上面平面図

第４節　11 層上面

11 層水田跡（第 11 図、写真図版 10）

11 層は、褐灰色 (10YR4/1) 粘土層で調査区全体に堆積する。層厚は２～８cm で植物遺体を少量含む。層下面の起伏は顕著で、12 層だけではなく一部では 13 層にも達している。水田土壌と考えられるが、畦畔及び遺構を確認することは出来なかった。検出面の標高は、西から東に緩く傾斜しており、西側 9.950 m、東側 9.825 mである。遺物は出土していない。

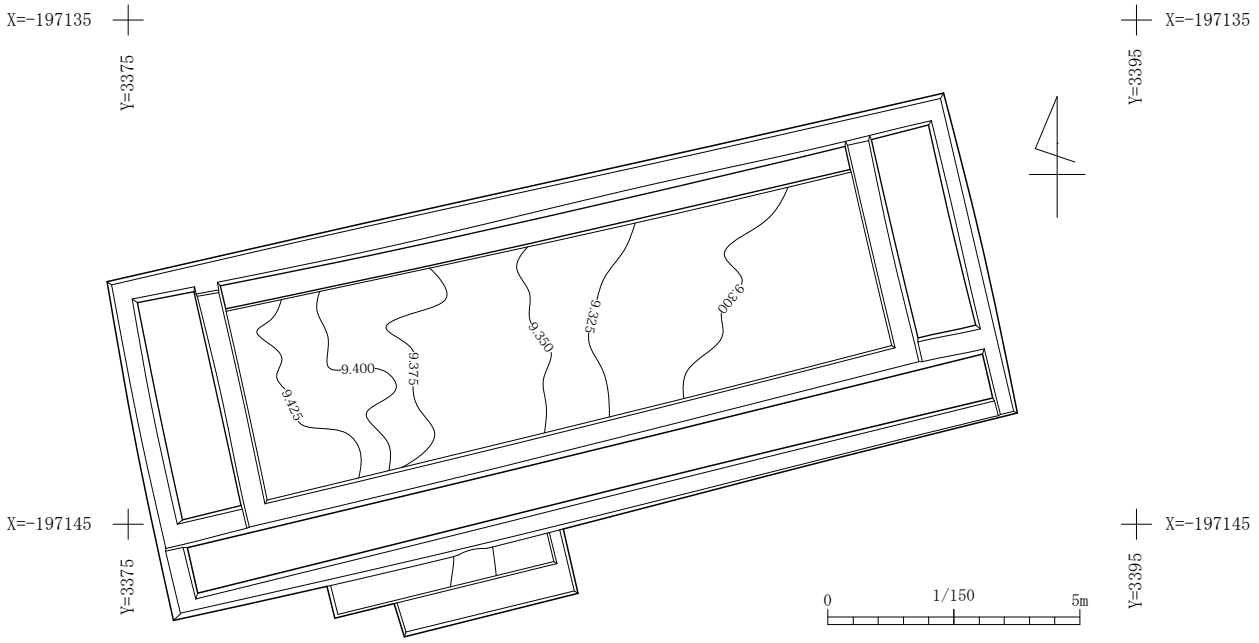


第11図　11層上面平面図

第５節　18 層上面

18 層水田跡（第 12 図、写真図版 10）

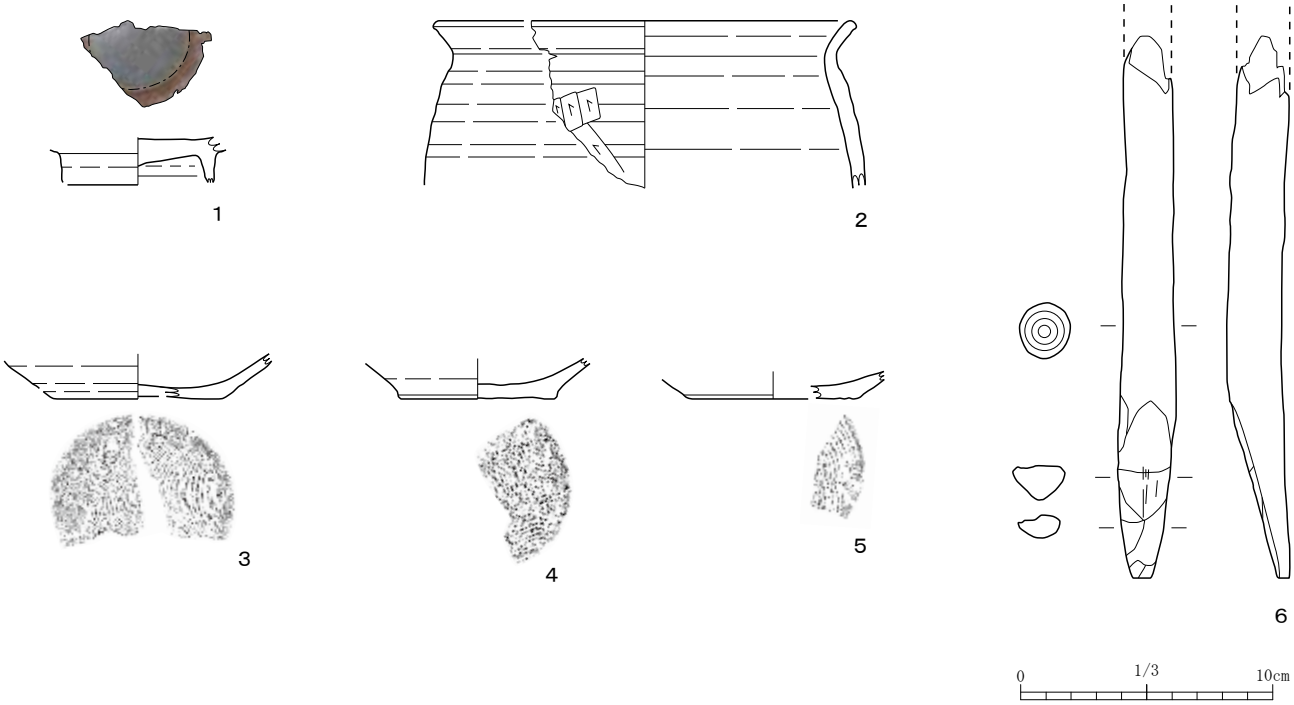
18 層は、灰黄褐色（10YR5/2）粘土層で調査区全体に堆積する。層厚は２～ 30cm ほどで植物遺体を少量含む。層下面の起伏は顕著である。水田土壌と考えられるが、畦畔及び遺構を確認することは出来なかった。検出面の標高は、西から東へ緩く傾斜しており、西側 9.425 m、東側 9.300 mである。遺物は出土していない。



第12図　18層上面平面図

第６節　出土遺物

第157次調査では、陶器12点、磁器16点、土師器53点、須恵器１点、近世瓦１点、木製品１点、自然遺物13点、その他14点が出土した。小破片資料が多く、基本層１層からは28点、３層から10点、４層から42点、６ａ層から３点、９層から７点、10層から１点、12層から１点、13層から２点、14層から７点、SD01堆積土１層から１点、その他から９点出土している。出土量が最も多い４層は直上３層耕作時の影響で撹拌されており、出土遺物は水田土壌の正確な帰属年代を示すものではない。10層から下位層出土の遺物は、１・３・４・６ａ・９層とは異なり土器・陶磁器などの出土は無く、木片など全て自然遺物であり、出土点数は各層１点ないし２点である。出土遺物の内、３層中出土陶器１点、４層上面出土土師器１点、４層出土土師器１点と木製品１点、６ａ層出土土師器１点、９層で土師器１点を図示した。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量（cm）			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	I-1	－	３層	陶器	皿	－	－	「1.8」	施釉	施釉	相馬焼　18ｃ後半　蛇の目釉剥ぎ	11-1
－	I-2	－	４層	陶器	皿	－	－	－	施釉	施釉	※写真図版のみ掲載	11-7
2	D-1	－	４層上面	土師器	甕	(16.8)	－	「6.6」	口：ロクロナデ 体部：ロクロナデ→ケズリ	口～体部：ロクロナデ		11-2
3	D-2	－	４層	土師器	坏	－	6.8	「1.8」	体部：ロクロナデ 底部：回転糸切り痕	体部：ロクロナデ		11-3
4	D-3	－	6a 層	土師器	坏	－	(6.0)	「1.6」	体部：ロクロナデ 底部：回転糸切り痕	体部：ロクロナデ		11-4
5	D-4	－	９層	土師器	坏	－	(6.8)	「1.1」	体部：ロクロナデ 底部：回転糸切り痕	体部：ロクロナデ		11-5

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量（cm）			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
6	L-1	－	４層	木製品	打ち込み杭	「21.5」	2.2	2.2	芯持ち材	11-6

第13図　出土遺物

第６章　まとめ

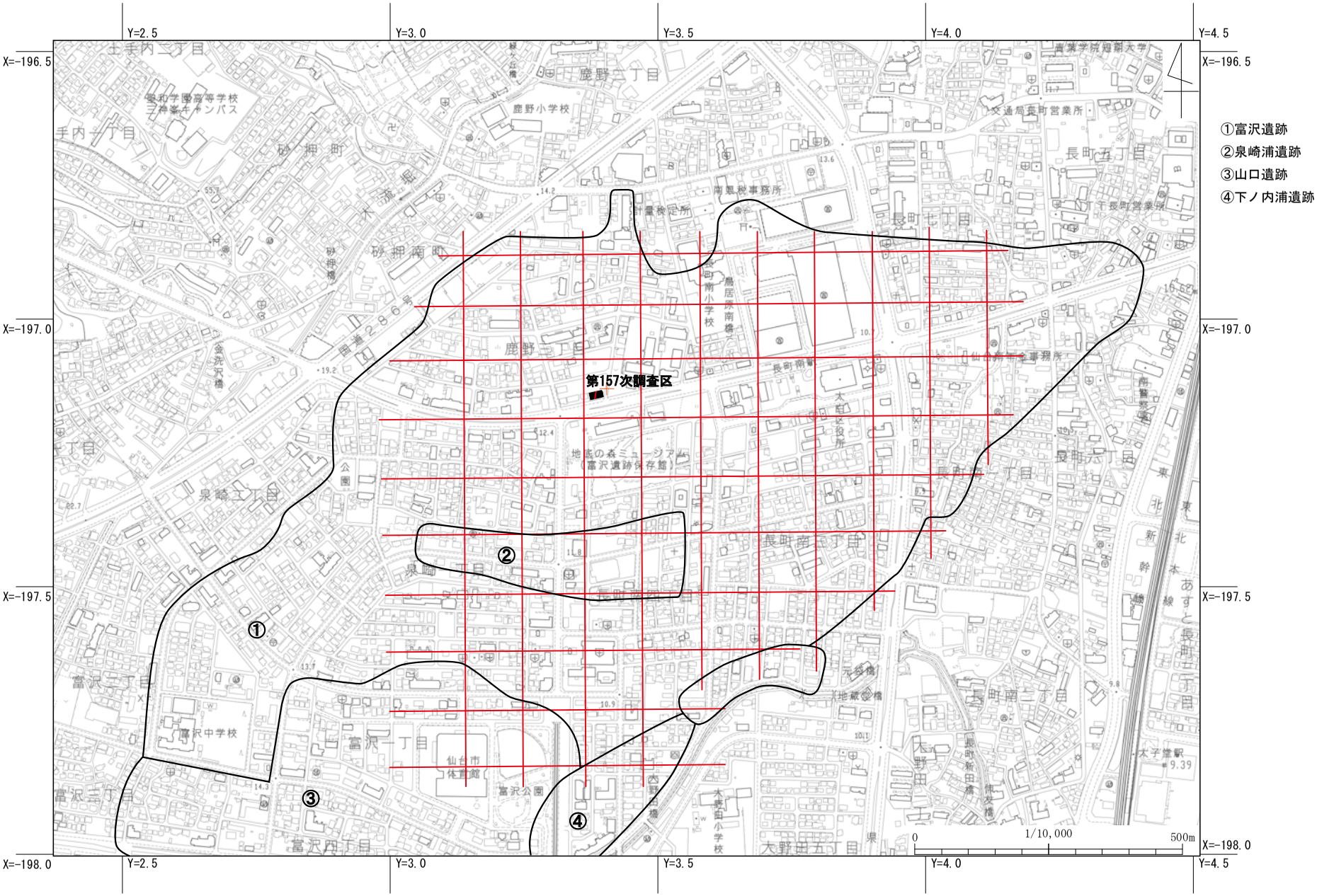
今回の調査では、３層、灰白色火山灰を含む４層、６a・６b層、11層、18層の５期の水田土壌を確認した。この内、３層と６a・６b層上面では畦畔を確認し５m以上の方形と考えられる区画を確認したが、限られた調査範囲であったため水田の区割りを明確に把握することは出来なかった。３層上面で確認した畦畔は、下端幅1.1～1.4mの比較的大きな畦畔で、この畦畔を境に西から東へ３cmほどの高低差が作られている。４層以下で確認した水田跡は、過去の調査報告と照合する限り弥生～近世の水田土壌と考えられる。ただし、耕作が連続して行われており土壌が撹拌される中で遺物が巻き上げられている可能性が否定出来ないことと、遺物の出土量が少ないことから、各水田土壌の帰属時期を示すことは難しい。また、標高的には第30次調査の旧石器時代の層の確認深度である6.7mまで掘下げたが、旧石器時代の層を確認することは出来なかった。

１．　３層上面で畦畔を１条、６a・６b層上面で２条確認した。３層上面で確認した畦畔と６a・６b層で確認した南北に延びる畦畔はほぼ同じ位置にあり、且つ同じ方向に延びている。４層は、十和田火山から噴出した十和田a火山灰に由来する灰白色火山灰をブロック状に含んでいることから、６a・６b層は火山灰降下以前、平安時代前半のものと考えられる。

２．　富沢遺跡で確認されている平安時代の水田跡は、条里制地割に基づいて区画されており、地割線は真北を基準とし間隔は107～110ｍのものが多い。南北900ｍ、東西1,100ｍの範囲に、東西方向に９条、南北方向に11条の地割線が推定復元され、地割線にあたる大畦畔の交点は異なる坪間における水口として機能していた可能性が指摘されている（仙台市教育委員会：1991)。３層中からは近世後半の陶器破片が出土しており、条里制を基に整備された区割りを、10世紀前半以降、近世にかけて踏襲していた可能性が考えられる。ただし、条里制地割図と第157次調査３層上面平面図を合成した場合、畦畔は南北方向の区画からは10ｍほど東に位置する（第14図）。また、３層上面と６ａ・６ｂ層上面にそれぞれ対応すると考えられる過去の調査成果との合成図を作成した結果（第15図）、前述した地割線の間隔とは異なるものとなった。第157次調査３層上面で確認した南北方向に延びる畦畔の対応としては、西側の第63次調査で確認した畦畔まで約150ｍ、東側の第88次調査で確認した畦畔まで約114ｍの間隔がある。また、第88次調査から東側の第131次調査で確認した畦畔までは約130～150ｍの間隔があり、第157次－第88次の間隔以外は、前述した条里制地割の間隔とは大きく異なる。同様第157次調査６ａ・６ｂ層上面で確認した南北方向に延びる畦畔の対応としては、西側の第61次調査で確認した畦畔までは約45ｍ、第61次から西側の第138次調査で確認した畦畔までは約140ｍの間隔があり、３層上面と同様、条里制地割の間隔とは異なるものである。それぞれの調査区範囲に限りがあり、且つ調査位置間に距離があることから、比較・検討資料としては不十分だが、確認した各畦畔は、条里制地割に基づいて作られた大畦畔に付随する小畦畔の可能性が考えられる。

３．　４・11・18層上面では、畦畔もしくは擬似畦畔A・Bを確認することは出来なかったが、それぞれ層下面の起伏が顕著であったことから水田土壌として記録した。第157次調査より東側の第131次調査成果と各層を比較した場合、11層は弥生時代の包含層相当で、12層が水田土壌に当たる可能性が考えられる。調査では、11層掘削後に12層の検出を行ったが、11層同様畦畔もしくは擬似畦畔A・Bを確認することは出来なかった。

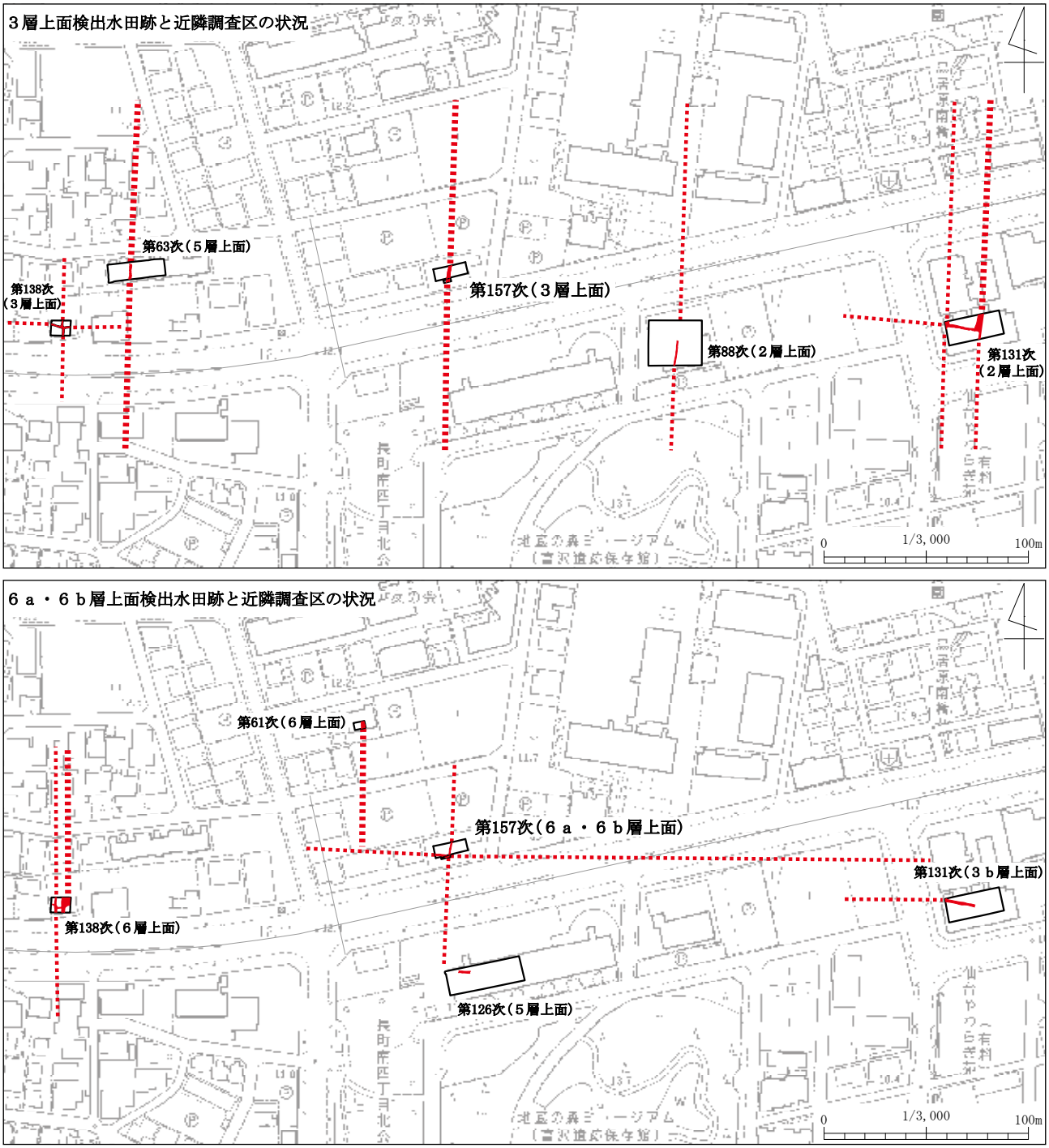
４．　遺物は、水田土壌３・４・６ａ層と基本層１・９層から、土師器・須恵器・陶磁器・瓦・木杭・種子などが出土しており、特に基本層１層、水田土壌３・４層からの出土が顕著である。また、４層検出中に確認した打ち込み杭は、先端を加工したφ３cmほどの杭である。第126次調査では、灰白色火山灰降下後の水田土壌である３層から、



第14図　富沢遺跡における条里制地割復元図(仙台市都市計画基本図「南部」1:10,000原図　平成28年度作成)(仙台市教育委員会「富沢遺跡第30次発掘調査報告書第Ⅰ分冊　第251図　条理型土地割の復元」を改編・使用した)

同様の木杭が出土しており、今回確認した打ち込み杭も灰白色火山灰降下後の耕作に伴うものである可能性が考えられる。種子は６ａ層中からの出土で、全てモモの種であり、南北方向に延びる畦畔東側、D2・3グリッドからの出土が顕著であった。９層より下位の層からは自然遺物以外の出土は無い。

５．　第 157 次調査区周辺で実施した過去の調査報告との層位の対応関係を検討した。対象としたのは、第 61 次・第 63 次・第 88 次・第 98 次・第 126 次・第 131 次・第 138 次・第 147 次調査である。これらの層位対応関係は第３表にまとめた。



（仙台市都市計画基本図「仙台市太白区」1/2,500原図　平成28年発行を複製・使用した）
（仙台市教育委員会「富沢・泉崎浦・山口遺跡（３）-富沢遺跡第57次～68次、山口遺跡第13・14次発掘調査報告書-
富沢遺跡第61次調査　第39図　６層水田跡平面図
富沢遺跡第63次調査　第55図　５層水田跡平面図」
「富沢遺跡第126次調査　第12図　５層検出遺構全体図」
「富沢遺跡第131次調査　第10図　２層水田跡全体図　第14図　３ｂ層水田跡全体図」
「富沢遺跡第138次調査　第６図　３層上面平面図　第９図　６層上面平面図」を改編・使用した）

第15図　３層上面、６ａ・６ｂ層上面検出水田跡と周辺調査区の状況

第３表　周辺調査との基本層序対応

調査位置	比較項目	水田検出層					
第 157 次	層位	3 層（畦畔・1 面目）	4 層（2 面目）	6a･6b 層（畦畔 2 条･3･4 面目）			
	土色	黒褐色粘土	暗黄灰色粘土	黒褐色粘土			
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位	灰白色火山灰堆積層	下位			
	すくも層からの高さ	約 +0.7 m	約 +0.6 m	約 +0.4 m			
	遺物	陶器・磁器・土師質土器	土師器（ロクロ）・木杭	土師器			
	所属年代	中世～近世	平安時代（915 年以降）	平安時代（915 年以前）			
第 138 次（157 次西側）	層位	3 層（畦畔）	5 層（大畦畔 1 条）	6 層（畦畔 4 条内大畦畔 1 条）	9a 層	10-1 層	
	土色	黒色粘土質シルト 砂粒・石英多量含む	黒褐色砂質シルト 灰白色火山灰ブロック多量含む	暗オリーブ褐色粘土質シルト 植物遺体少量含む			
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位	畦畔のみに含む	下位			
	すくも層からの高さ	約 +0.15 m	約 +0.1 m	直上			
	遺物	土師器	自然木	縄文土器・自然木			
	所属年代	中世以降	平安時代（915 年以降）	平安時代（915 年以前）	古墳時代	弥生時代	
第 63 次（157 次西側）	層位	5 層（畦畔 3 条）		7 層上層	8a･b 層（畦畔）	11 層	
	土色	黒褐色シルト質粘土		黒褐色粘土			
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位		なし			
	すくも層からの高さ						
	遺物	陶器・磁器・赤焼土器		ロクロ土師器･非ロクロ土師器･赤焼土器			
	所属年代	中世以降		平安時代（火山灰降下以前）	古墳時代	弥生時代	
第 131 次（157 次東側）	層位	2 層（畦畔 2 条）	3a 層（擬似畦畔 B）	3b 層（擬似畦畔 B）			
	土色	黒褐色シルト質粘土 酸化鉄が下部に集積	黒褐色粘土　灰白色火山灰ブロックを含む、3b 層を巻き込む	黒褐色粘土　灰白色火山灰ブロックを含む、5 層を巻き込む			
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位	灰白色火山灰堆積層	灰白色火山灰堆積層			
	すくも層からの高さ	約 +1 m	約 +0.9 m	約 +0.9 m			
	遺物	陶器・磁器	陶器・ロクロ土師器	土師器			
	所属年代	近世～近代	古代～中世	古代～中世			
第 98 次（157 次東側）	層位	2 層	3 層（畦畔 2 条）				
	土色	オリーブ黒色粘土	黒色粘土 灰白色火山灰ブロックを含む				
	灰白色火山灰堆積層との関係	上	含む				
	すくも層からの高さ	約 +0.1 m	直上				
	遺物	陶器	なし				
	所属年代	近世	平安時代以降				
第 147 次（157 次東側）	層位		2a 層（擬似畦畔 B1 条）			6 層	
	土色		黒褐色粘土 灰白色火山灰ブロックを含む				
	灰白色火山灰堆積層との関係		灰白色火山灰堆積層				
	すくも層からの高さ		約 +0.3 m				
	遺物		須恵器・土師器・桃の種子				
	所属年代		平安時代以降			弥生時代	
第 126 次（157 次南側）	層位	3 層	4 層（畦畔 2 条）	5 層（畦畔 1 条）	8 層	9 層（畦畔か）	12 層（区画）
	土色	黒褐色粘土　西半部では粗砂を全体的に含み、まれに小礫含む	褐灰色粘土 灰白色火山灰を小ブロック状に部分的に含む	黒褐色粘土 西半部では粗砂を全体的に含む			
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位	灰白色火山灰堆積層	下位			
	すくも層からの高さ	約 +0.4 m	約 +0.35 m	約 +0.3 m			
	遺物	陶器・磁器・土師器・砥石・杭	ロクロ土師器	ロクロ土師器			
	所属年代	中世末かそれ以降	平安時代後半	平安時代前半	古墳時代前期	弥生時代中期以降	弥生時代中期
第 88 次（157 次南東側）	層位	2 層	3 層（擬似畦畔 B3 条）				
	土色	黒色粘土	黒褐色泥炭質粘土 一部で灰白色火山灰ブロックを含む				
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位	灰白色火山灰堆積層				
	すくも層からの高さ	約 +0.1 m	直上				
	遺物	陶器・磁器・土師器・古銭・金属製品・杭	土師器・古銭（11 ～ 12C のもの）・種子				
	所属年代	中世～近世	中世（火山灰降下以降）				
第 61 次（157 次北側）	層位	4 層	5 層（畦畔）	6 層（畦畔）	8a 層 （擬似畦畔 B）	12・13 層	
	土色	黒色粘土 灰白色火山灰粒少量含む	褐灰色粘土 灰白色火山灰ブロック少量含む	黒褐色粘土 植物遺体少量含む			
	灰白色火山灰堆積層との関係	上位	灰白色火山灰堆積層	下位			
	すくも層からの高さ	約 +0.4 m	約 +0.35 m	約 +0.3 m			
	遺物	無し	ロクロ土師器	杭			
	所属年代	中世～近世	平安時代 （灰白色火山灰降下以降）	平安時代 （灰白色火山灰降下前）	古墳時代	弥生時代	

引用・参考文献

佐藤甲二　1999　「水田跡に関する擬似畦畔Ｂと連続耕作－仙台市富沢遺跡の事例から－」『人類集報 1999』
東京都立大学考古学報告４　東京都立大学

松本秀明　1981　「仙台平野の沖積層と後氷期における海岸線の変化」『地理学評論』第 52 集第２号

財団法人　瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター　2006　『江戸時代のやきもの－生産と流通－』
記念講演会・シンポジウム資料集

仙台市教育委員会　1987　『富沢遺跡第 15 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 98 集

仙台市教育委員会　1988　『富沢遺跡 24 次調査　富沢中学校地区　発掘調査報告書』
仙台市文化財調査報告書第 113 集

仙台市教育委員会　1991　『富沢遺跡第 30 次発掘調査報告書第Ⅰ分冊　縄文～近世編』
仙台市文化財調査報告書第 149 集

仙台市教育委員会　1991　『富沢遺跡第 35 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 150 集

仙台市教育委員会　1997　『富沢・泉崎浦・山口遺跡 (10)　－富沢遺跡第 86 次発掘調査報告書－』
仙台市文化財調査報告書第 220 集

仙台市教育委員会　1999　『富沢遺跡第 104 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 235 集

仙台市教育委員会　2004　『富沢遺跡第 126 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 273 集

仙台市教育委員会　2004　『富沢遺跡第 131 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 276 集

仙台市教育委員会　2007　『富沢遺跡第 138 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 313 集

仙台市教育委員会　2011　『富沢遺跡第 145 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 382 集

仙台市教育委員会　2013　『富沢遺跡第 146 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 410 集

仙台市教育委員会　2017　『富沢遺跡第 149 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 453 集

福島市教育委員会　公益財団法人　福島市振興公社　2015　『福島城跡 4』福島市埋蔵文化財報告書第 227 集

福島市教育委員会　公益財団法人　福島市振興公社　2016　『福島城跡 5』福島市埋蔵文化財報告書第 231 集

写　真　図　版

調査区南方遠景（調査区上から撮影　北から）

調査区南壁断面（北東から）

写真図版１　調査区南方遠景・調査区南壁断面

調査区全景（北から）

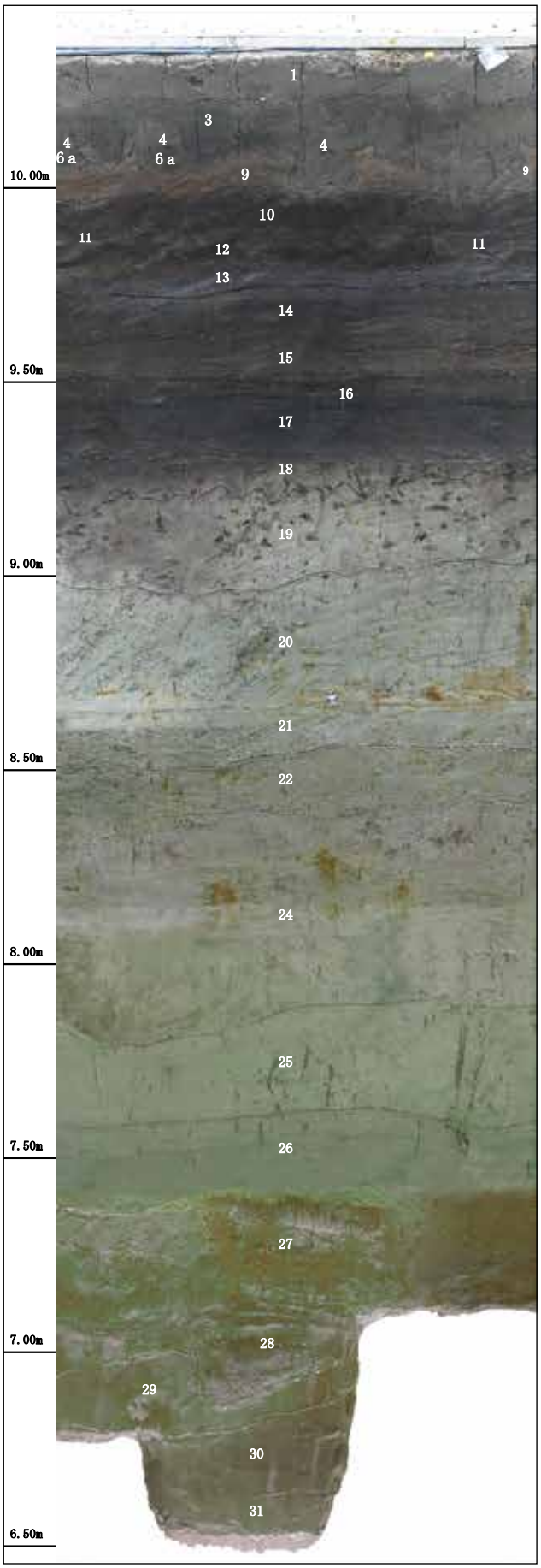
調査完了状況（西から）

写真図版２　調査完了状況（１）

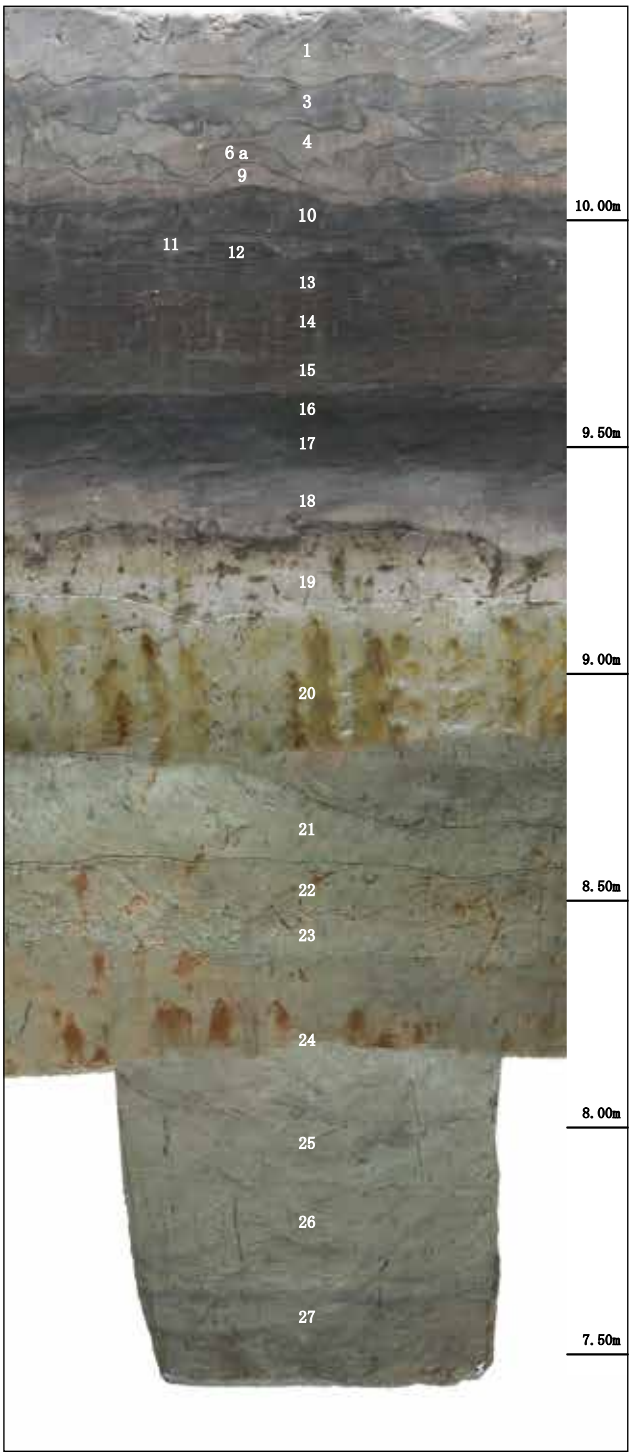
調査完了状況（西から）

調査完了状況（北東から）

写真図版３　調査完了状況（２）



調査区南壁基本層序（北から）※オルソ撮影画像加工



調査区西壁基本層序（東から）※オルソ撮影画像加工

写真図版４　基本層序

調査区南壁断面（北東から）

調査区西壁断面（東から）

写真図版５　調査区南壁・西壁基本層序

調査区南壁断面上層①　1～18 層（北から）

調査区南壁断面上層②　1～18 層（北から）

調査区南壁断面上層③　1～18 層（北から）

調査区南壁断面上層④　1～18 層（北から）

調査区南壁断面上層⑤　1～18 層（北から）

調査区南壁断面下層①　10～20 層（北西から）

調査区南壁断面下層②　20～27 層（北西から）

調査区南壁断面下層③　28～31 層（北から）

写真図版６　調査区南壁基本層序

調査区西壁断面上層①　1～18 層（東から）

調査区西壁断面上層②　1～18 層（東から）

調査区西壁断面上層③　1～18 層（北東から）

調査区西壁断面上層④　1～18 層（南東から）

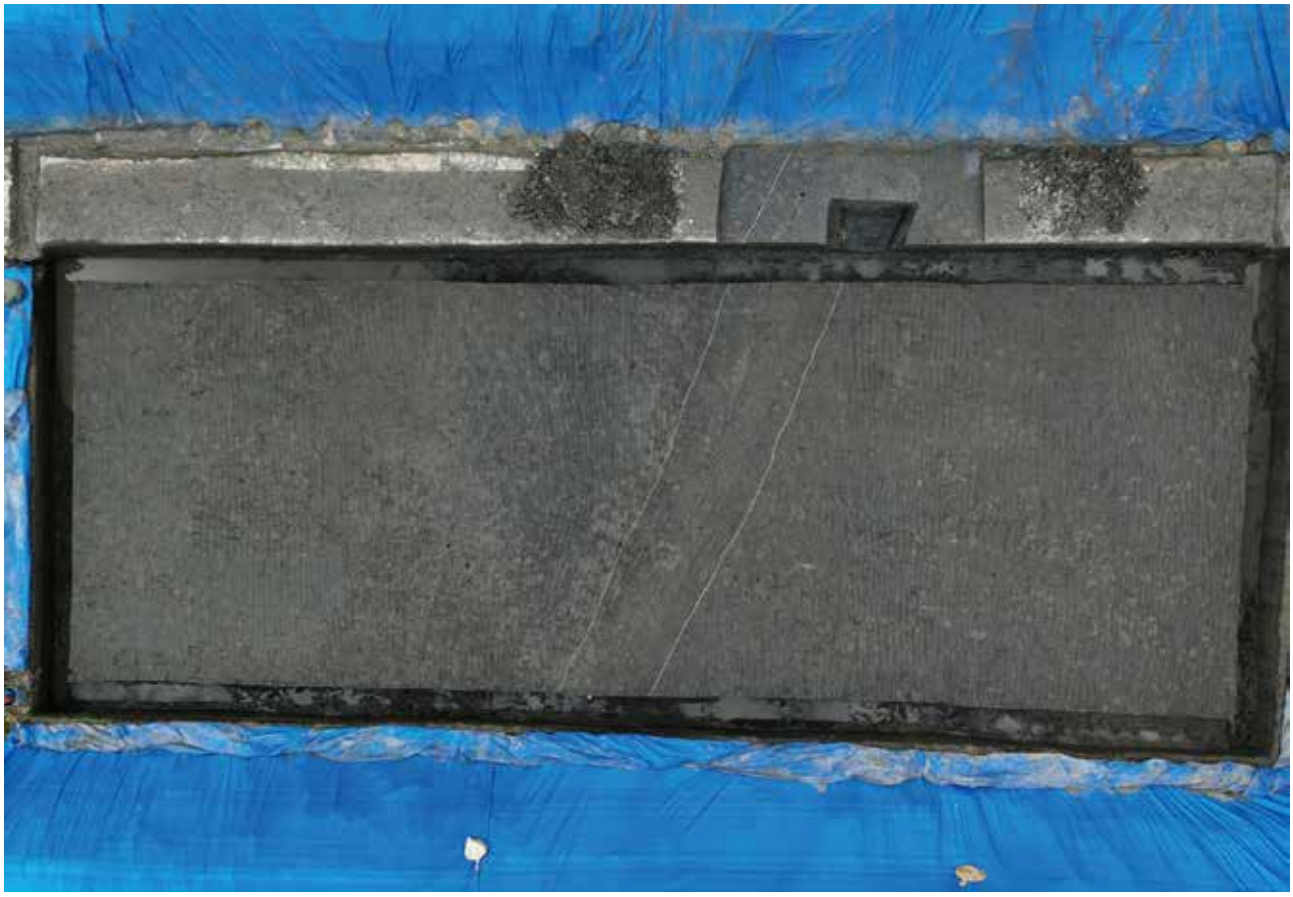
調査区西壁断面下層①　15～20 層（北東から）

調査区西壁断面下層②　15～20 層（南東から）

調査区西壁断面下層③　21～26 層（南東から）

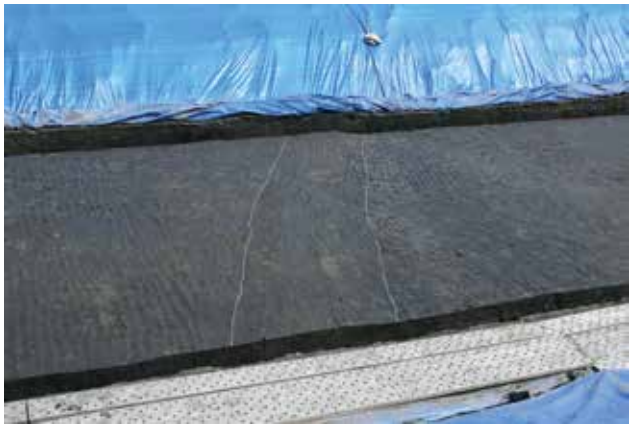
調査区西壁断面下層④　21～28 層（東から）

写真図版７　調査区西壁基本層序



３層上面　水田跡確認状況（北から　※写真は３層上面調査後に実施した補足調査時撮影データを簡易合成したもの）

３層上面　調査区南壁畦畔断面（北から）



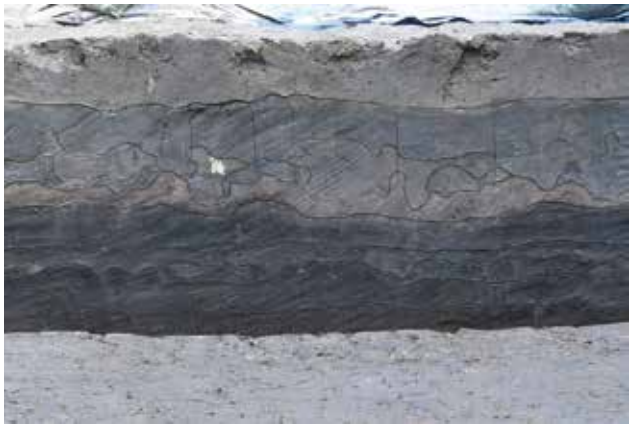
３層上面　水田跡確認状況（南から）

３層上面　SD01 溝跡完掘・断面（北から）

３層中　遺物（第 13 図１）出土状況（北から）

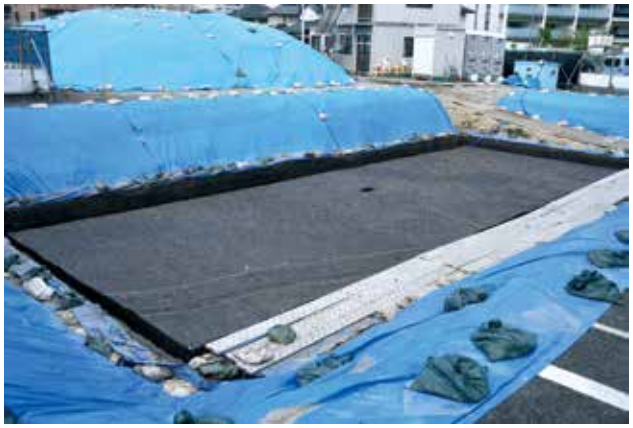
写真図版８　３層上面検出遺構・３層中遺物出土状況

６ａ・６ｂ層上面　水田跡確認状況（北から）



６ａ・６ｂ層上面　調査区西壁畦畔断面（東から）

６ａ・６ｂ層上面　調査区北壁畦畔断面（南から）



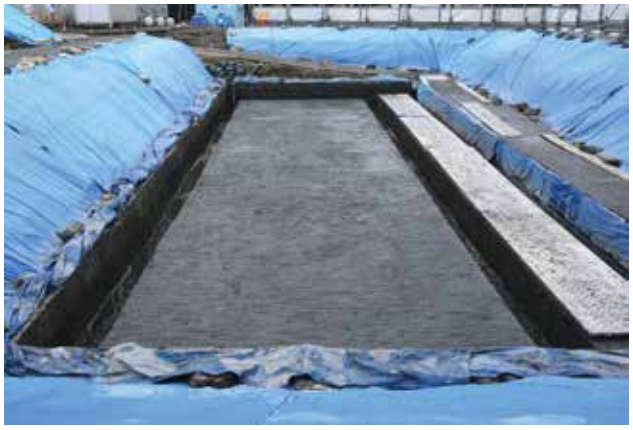
６ａ・６ｂ層上面　水田跡確認状況（南西から）

６ａ・６ｂ層上面　水田跡確認状況（西から）

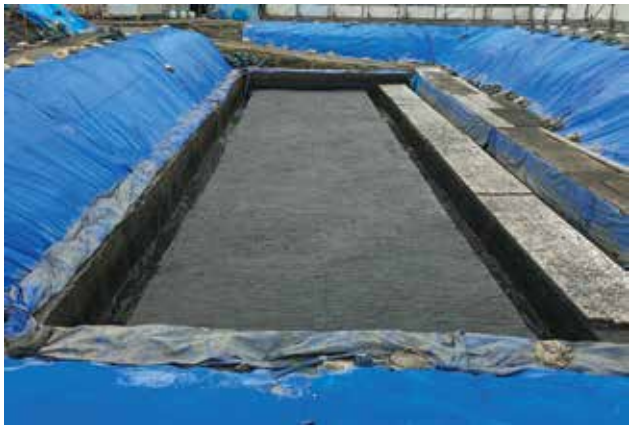
写真図版９　６ａ・６ｂ層上面検出遺構

４層上面　水田跡確認状況（東から）

９層上面確認状況（西から）



11 層上面　水田跡確認状況（西から）



12 層上面確認状況（西から）

18 層上面　水田跡確認状況（西から）

下層掘削途中　22 層上面（南東から）

調査区東壁断面（南西から）

調査区北壁断面（南東から）

写真図版 10　４・11・18 層上面水田跡確認状況、９・12 層上面確認状況、掘削途中、調査区東・北壁断面

４層検出　木杭（第 13 図６）土層断面（南から）

４層中　遺物（第 13 図２）出土状況（北から）

４層中　遺物出土状況（北から）

４層中　遺物（第 13 図３）出土状況（東から）

写真図版 11　遺物出土状況・出土遺物

報告書抄録

ふ り が な	とみざわいせき
書　　名	富沢遺跡
副　書　名	第157次発掘調査報告書
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第504集
編 著 者 名	柳澤　楓　工藤信一郎　稲垣裕二　小林あきほ　佐々木和城
編 集 機 関	仙台市教育委員会
所　在　地	〒980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉一丁目５番12号 TEL 022-214-8899　FAX 022-214-8399
発行年月日	2023年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
とみざわいせき 富沢遺跡	みやぎけんせんだいしたいはくく 宮城県仙台市太白区 かの 鹿野３丁目225－１、 225－６	04104	01369	38° 22′ 40″	140° 87′ 20″	20220711～ 20221026	310	共同住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富沢遺跡	水田跡	弥生時代～ 近世	水田跡 溝跡	土師器 須恵器 陶器 磁器 木杭 種子	

要　約	富沢遺跡は、仙台市南部の仙台市太白区富沢・泉崎・鹿野・長町南地内にわたって所在する遺跡で、名取川と広瀬川に挟まれた標高約９～16ｍの群山低地に位置する。 今回の調査では、基本層３、４、６ａ・６ｂ、11、18層を水田土壌とする水田跡としたが、３層と６ａ・６ｂ層上面でのみ水田を区画する畦畔を確認した。周辺調査区の層位と比較した場合、確認した各水田跡の時期は弥生時代～近世のものと考えられる。確認した畦畔は、周辺調査区で復元されている条里制地割に伴う畦畔と関連する可能性が考えられるが、調査区に限りがあったため、明確な区割りを復元するには至らなかった。また、３層上面では溝跡１条を確認したが、調査区内及び北壁面で確認することが出来なかったことから、溝跡の規模や機能については明確には出来なかった。

仙台市文化財調査報告書　第 504 集

富　沢　遺　跡

― 第 157 次発掘調査報告書 ―

2023 年３月

発行　仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区上杉一丁目５番 12 号
文化財課 022(214)8899

印刷　株式会社東北プリント
宮城県仙台市青葉区立町 24-24
022(263)1166